

里の美しさを、未来へ、世界へ。



くまもと
里モン
プロジェクト

[優良事例集]

平成 25 年度 ~ 令和元年度
(2013 年度) (2019 年度)

里の美しさを、 未来へ、世界へ。

くまもと里モンプロジェクト、7年間の成果



1. はじめに

熊本県は美しい田園風景や農村文化に満ちています。これらは古くから営まれてきた農林水産業によって生み生まれ、食料生産という役割だけでなく、県土の保全や水源の涵養、自然環境の保全、あるいは、それらにふれる人々を癒やしたり、心身の機能回復や教育的な効果も有していると言われています。これら熊本の豊かな「里」の魅力は、世界にも誇れるものに違いありません。

しかし、熊本の「里」が次世代に継承され、本当に世界に誇れるものになっていくためには、各地に息づいている魅力を再発見し、磨きをかけていく必要があります。

「くまもと里モンプロジェクト」は、これら県下に広がる素晴らしい風景や文化、里の美しさを県民みんなで育て、世界に向かって発信して行こう!というプロジェクトで、平成25年(2013年)からスタートしました。農山漁村における「美しい景観の保全、創造」「文化・コミュニティの維持、創造」「地域資源を活用した内発的産業の創造」といった住民主体の取り組みの芽吹きを支援し、県下全域に展開してきました。

県下各地の地域活動団体からの応募を審査し、採択された団体には活動資金50万円を上限に助成。熊本県独自の自由度の高い助成制度で、のべ789団体が採択されました。

本書は、これら多くの地域活動の芽吹きの中から、優良事例あるいは地域活動に携わる皆さんの参考になるとと思われる事例をとりまとめたものです。今後のよりよい活動のために、ぜひ、ご活用ください。

令和2年3月
熊本県むらづくり課

2. 里モンプロジェクトの取り組み概要

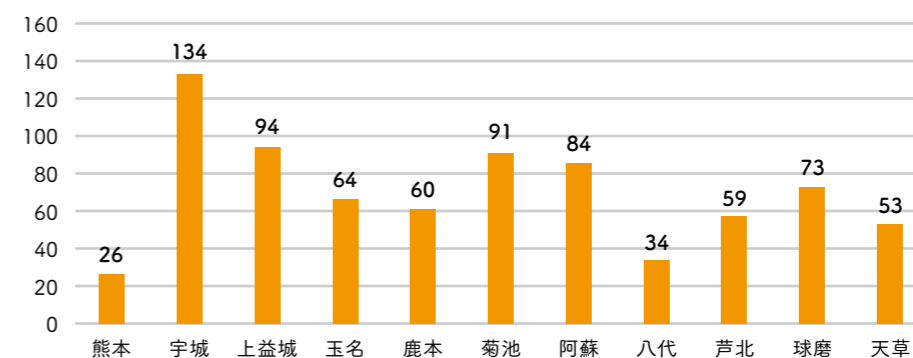
くまもと里モンプロジェクトは平成25年(2013年)からの7年で789件の地域活動を支援してきましたが、下に示したようにそのテーマや地域は多彩です。

大きな3つのテーマ「美しい景観の保全・創造」「文化・コミュニティの維持・創造」「地域の資源を活用した内発的産業の創造」のそれぞれに多くの活動があり、また、その中には熊本地震からの復旧・復興につながる多くの取り組みがありました。

地域別にみると、宇城エリアの134件を筆頭に、県下各地域で多くの取り組みが生まれていることがわかります。

① 美しい景観の保全・創造	281件
② 文化・コミュニティの維持・創造	201件
③ 地域の資源を活用した内発的産業の創造	307件
※ 震災復興の取り組み(H28~29、内数)	91件

地域別取組件数



里の美しさを、 未来へ、世界へ。

くまもと里モンプロジェクト、7年間の成果



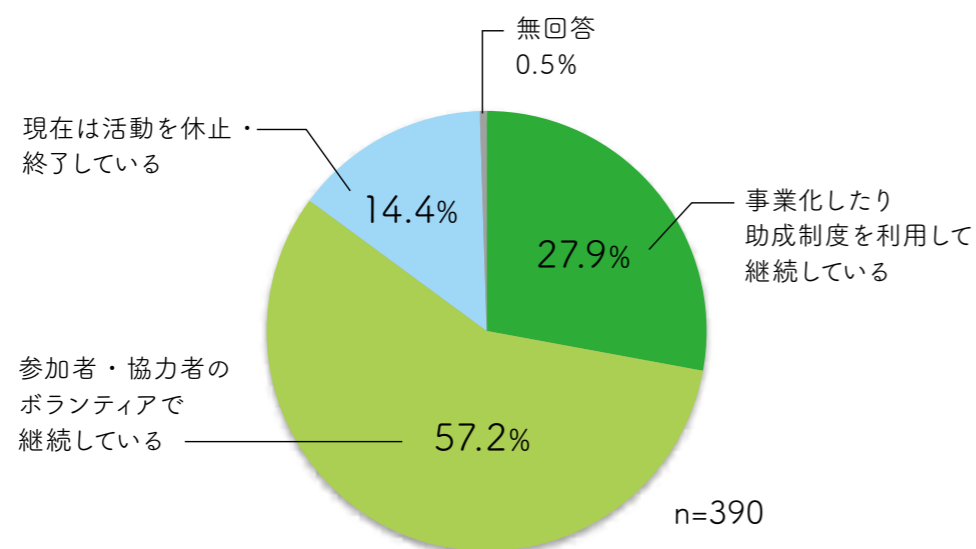
3. 採択団体へのアンケート結果

平成25年（2013年）～平成30年（2018年）の採択団体に対し、アンケートを実施しました。それぞれの活動を振り返って、活動の現状や成果についての自己評価などをお聞きしたものです。（回答団体数390）

ここではアンケート結果を簡単にご紹介します。

◎里モンプロジェクトの活動は継続性が高い！

アンケートに回答していただいた団体のうち85.1%が「活動を継続中」と回答しています。里モンプロジェクトでスタートした活動が、県下さまざまな地域で根づいていることを表しています。

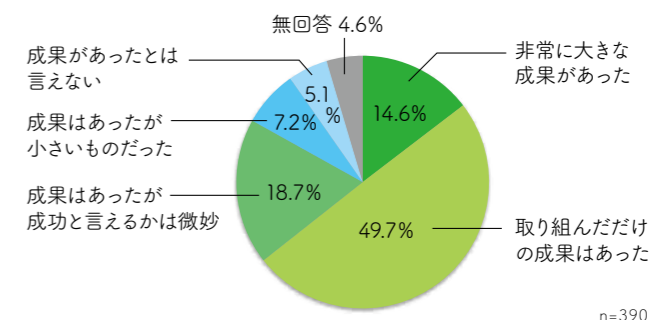


◎成果についての自己評価

アンケートでは、各団体に自らの活動への自己評価をしていただきました。あくまでも自己評価であり、客観的な評価ではないため比較はできませんが、活動の姿勢や手応えを感じ取れるひとつの目安になると思います。

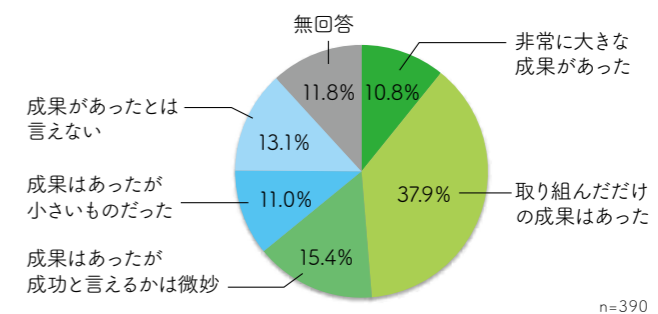
A. 物理的な評価

これだけの面積が花畑に変わった、新商品が完成した、売上が上がったなど、具体的な成果についての評価です。



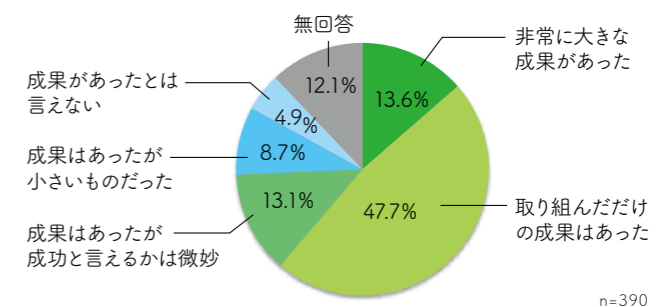
B. 人材的な評価

雇用が増えた、定住する人が増えた、地域の人々の学ぶ機会が増えたなど、人材に関する成果への評価です。



C. 内面的な評価

目には見えないが、住民の元気・やる気・やりがいなどが向上したといった団体や地域の内面に関する成果への評価です。



目次 掲載団体一覧

熊本

親子でくまもとを楽しむプロジェクト	007
河内おに嫁ブランド推進協議会	008
熊本市青年農業者クラブ連絡協議会	009
沈目自治会	010
農事組合法人 熊本すぎかみ農場	011

宇城

NPO法人 網田倶楽部	012
庵室区むらづくり実行委員会	013
石橋組合	014
宇土の暮らし製作所	015
社会福祉法人熊本県手をつなぐ育成会	
熊本こすもす園	016
船場川を愛する会	017
花園クリエイティブクラブ	018
美里フットパス協会	019
美里町水上迫生活研究グループ	020
水上・迫地区美化活動会	021
三角サトウキビ活性化会	022
三角4H研究会	023

上益城

JA上益城有機農業研究会田小野	024
NPO法人 山都のやまんまの会	025
浦川商店街	026
大野自治振興区	027
特定非営利活動法人SKウェルネス	028
東竹原自治振興区 東竹原笑談会	029
ましきフットパスの会	030
水越地域活性化協議会	031
森と暮らしの学校 森林楽(SINRINGAKU)	032
山都町千滝公民館	033
山都町棚田復興プロジェクト	034

玉名

NPO法人いろね	035
NPO法人 日本文化の推進協議会	036

小田地区 金栗四三PR推進部会	037
-----------------	-----

たまな稲(いいね)!	
田んぼアートプロジェクト実行委員会	038
月瀬興しプロジェクトHATM	039
特定非営利活動法人あめのゆみ	
Rainbow project 九州	040
なごみの郷高野地域づくり協議会	041
二俣の杜	042

鹿本

NPO法人山鹿もてなしたい	043
鹿北地域里山暮らしいきいきネットワーク	044
たけんこ街道協議会	045
特定非営利活動法人 岳間ほっとネット	046
農事組合法人 庄の夢	047

菊池

あじさいグループ(現:めだかスクール)	048
うぶとも	049
エディブルフラワーで未来を拓く会	050
熊本県立大学丸山ゼミチームDOSENTO	051
プロジェクト合志	052

阿蘇

公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター	053
古閑をよくし隊	054
ことあそ編集部	055
立野地域復興むらづくり協議会	056
手野名水会	057
西原村rebornネットワーク	058
碧水ホテルの里	059
わらべの森	060

八代

NPO法人WE	061
NPO法人二見わっしょいファーム	062
里山組合ういずゆ〜	063
農事組合法人 鶴喰なの花村	064
八代妙見祭保存振興会	065

芦北

NPO法人赤松館保存会	066
一般社団法人 さくら福祉会	067
中小場婦人会	068
ビーンズクラブ	069
水保、芦北たけのこ部会	070
水保 林業女子会	071

球磨










あさぎり銘酒会	072
五木村グリーンツーリズム研究会	073
五木村ニンニク生産組合	074
五木村もりづくり工房	075
田舎の体験交流館 さんがうら運営委員会	076
お茶の新産地形成プロジェクトチーム	077
熊本県立大学COC学生研究	
相性が良くなる村の縁づくりプロジェクト	078
茶柱倶楽部	079
中山間松尾集落	080
槻木集落支援事業所	081
槻木和紙組合	082
錦町第一区	083
人吉市矢黒町シニアクラブ長生会	084
百太郎溝土地改良区	085
フットパス相良路	086
山の食菜「ならがわ」	087
蓮華ファーム上村	088

天草

嵐口里山保存会	089
老岳集落	090
倉岳トレイルクラブ	091
御所浦地区振興会	092
しもうら弁天会	093
みどりの会	094
湯島・夢の島づくり会	095

[ピクトグラムについて]

本書には各団体の活動のテーマが、ピクトグラムで表示されています。

-  調査・研究・企画
-  地域人材の育成・学び
-  地域文化の保存・継承
-  美しい景観づくり・環境保全
-  自然エネルギー・資源活用
-  商品開発・事業開発
-  販売促進・マーケティング
-  人材交流・文化交流
-  地域住民の元気づくり
-  定住促進

[自己評価について]

本書中の自己評価は前章に記載したように、3つの項目で評価されており、その評価は下記のように5段階で表示されています。

- ★ 成果があるとは言えない
- ★★ 成果はあったが小さかった
- ★★★ 成果はあったが成功と呼べるかは微妙
- ★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- ★★★★★ 非常に大きな成果あり

親子でくまもとを楽しむプロジェクト

子育てママと子どもが農家さんのお手伝い。
「農」体験で育児からのリフレッシュにも期待。

〒862-0952 熊本市東区京塚本町 ●電話：090-4583-5561 ●代表：オノユリ ●会員数：約 50 名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶ 出産・子育てを機に社会から離れているママと、繁忙期の農家さんをマッチングすることで、互いの課題や困りごとの解消につながるのではと始めたプロジェクト。
- ▶ 核家族化が進み、24時間、乳幼児と相対する暮らしに心身両面で大きな負担を感じるママや、社会からの孤立感に苛まれるママも多い。農業ボランティアを通じて働く楽しさを思い出し、社会のなかに居場所があることを再認識したり、農業中のひと時でも子どもから離れ、土に触れてリフレッシュすることで普段の育児時間にもよい作用をもたらすことが期待できる。
- ▶ 農家にとっては除草、収穫など一時的な繁忙期の働き手の確保になる。子育て中のママとの接点を増やすことで、消費者とのつながりや食育、後継者の育成など、長い目で見た農業の発展につながる可能性も。
- ▶ 農家からの要望に合わせて会員から参加者を募り、収穫ボランティアや収穫体験などを行っている。

自己評価

- | | | |
|----------|------|--------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶ 収穫体験は随時、行う予定。ボランティアは託児場所の確保や、農家さんの本来のニーズ(時間帯など)に応えられる体制づくりも含め、再考していきたい。
- ▶ 収穫ボランティアのおかげで、子育て支援サークルで地域食堂を行う際の食材を提供いただくなどの縁も広がった。子どもが農業に触れること自体に未来を感じてくれる農家もあるので、互いにいい形を模索したい。

課題点・反省点

- ▶ 収穫ボランティアは託児場所があることが条件となり、場所の確保が難しかった。また、必要な人員を確保するための広告や周知の難しさを感じている。
- ▶ 農家の多くが早朝から作業をするケースが多いが、一方でママたちは幼稚園の送迎などを終えた後でないと動けない人も多い。おのずと活動時間が10時~14時くらいに限られ、本来の農家のニーズを満たせない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ やりたいことのビジョンをしっかりと持ち、全員が同じ方向を向いていること。ベクトルが同じであることがとても大事。意見のすりあわせはしっかりと！



収穫したサラダ玉ねぎは、出荷できるものとできないものに分けられる



出荷できない野菜は、おすそわけ惣菜として子育て支援に活用



サラダ玉ねぎの収穫ボランティア風景



農家さんの対話も貴重な体験



青梗菜やほうれん草の収穫に挑戦



スイカの収穫体験の1コマ



ズッキーニの収穫体験

河内おに嫁ブランド推進協議会

河内の農家の主婦たちがオリジナル商品やイベントを開催。ギフトセットも話題に。

〒8615346 熊本市西区河内町河内1978-1 ●電話：090-5732-5278 ●代表：大森とも子 ●会員数：18名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 河内町の農家の主婦たちが集まって作った団体。地域の伝承料理や、産物を使った料理・スイーツなどを若いファミリー世代に伝えるイベントを実施。
- ▶ 河内産の産物を使ったお菓子を商品化し、県外の直売所で販売してもらっている。
- ▶ 九州の女性グループに加え、関西のグループも参加し、15~20団体と交流を続けている。
- ▶ グループで度々話し合いを重ね、新商品を開発。単品販売だけでなく、ギフトセットなどもつくった。内容の充実ぶりが話題になり、売り上げが伸びた。
- ▶ みかんの皮を陳皮にし、地元産の材料でスパイスを開発した。
- ▶ 地元の小学生に包装紙の絵を依頼。新商品を入れたギフトセットの販売なども継続して行っている。

自己評価

- | | | |
|----------|------|---------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶ 河内町の良さを知って欲しいという思いもあり、小さな婚活イベントなども実施。今後もニーズがあれば、行政などと連携しながら取り組みたいと考えている。

課題点・反省点

- ▶ イベントをしようとするときに、募集の方法が難しいところが問題である。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 無理なく活動し、楽しく続けることが大事だと思う。



みかん農家の多い河内地区。農家の嫁ならではの視点で、皮などを有効利用した調味料をはじめ、さまざまな商品を開発。にぎやかなギフトセットに注目が集まった

農作物の収穫管理や農業用施設の体験で、農と観光の連携へ！

〒860-0831 熊本市中央区八王寺町 1-20 ●電話：096-273-9674（津田） ●代表：原田貴浩 ●会員数：22名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶東海大学の学生と教授をモニターとし、農作物の収穫体験と、熊本市北区の観光施設(吉次園、スイカの里植木)の視察を行い、地域の魅力向上と農業への興味向上に関する調査を行った。その後、モニターにアンケートを取り、体験・訪問の前と後で、意識・関心がどのように変化したのかを調べた。
- ▶アンケートを取り、参加者の気持ちを知ることができ、特に農家への興味が上がリ、知らなかった観光地も知ってもらえた。
- ▶同様の視点で他の熊本の特産となる生産物についても知りたい、農家でしかできない体験をしてみたいという声もあった。
- ▶モニター側の興味の持ち方が変わるのが目に見えてわかり、企画側の私たちや圃場を貸してくれた農家さんのモチベーションも上がった。今年度も続けたいという声があがるほどだった。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★ 成果はあったが小さかった
 交流・雇用・定住 ★★ 成果はあったが小さかった
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶野菜の栽培や農家の暮らしの風景を通して、今まで農家に全く興味がなかった若い世代にも、農業への興味を持ってもらい、「農業=いいイメージ」となるように取り組みを続けたい。
- ▶若い世代の人が気軽に農業にふれられるようなことをしていきたい。行政にもそういった視点で、私たちの農業者クラブを利用してほしい。積極的に連携したい。

課題点・反省点

- ▶観光施設をめぐる際、説明不足などがあり、到着した先々で一番のおすすめ点などがわかりづらく、モニターが戸惑うことがあった。このあたりをわかりやすく説明する技術も必要だと感じた。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶相手側の要望に応えるのも大事だが、まずは自分のやりたいことを自分のやりたい方法でやる！



圃場に足を運び、生産者の話を興味深く聞くモニターたち（東海大の学生・教授）



奥の農産物が並ぶスイカの里植木



今回モニターに参加してくれた人たち



見学終了後はクラブのメンバーと交流



バーベキューで親睦を深めた



観光農園と直売所、カフェを併設した吉次園も訪問



日本一のナスの収穫



ナスの栽培状況を学ぶモニター

地元に残る「沈目大蛇」の修理と紙芝居化。地域コミュニティの伝承文化を次世代へ！

〒861-4215 熊本市南区城南町沈目 ●電話：090-4133-0190（小夏英昭） ●代表：森 榮一 ●会員数：100名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶沈目集落には、江戸の昔より伝承されてきた「沈目大蛇踊り」がある。雨が降らず干ばつに苦しむ沈目の村人が雨乞い祈願のため大蛇を作り舞ったのが起りとされる。自然の恵みへの感謝と人々の多幸を願い毎年「小木阿蘇神社」の祭礼で奉納されてきた。
- ▶地域コミュニティの核となる場でもあり、次世代へ継承していきたい祭礼ではあるものの、大蛇の造り物は定期的にメンテナンスが必要で、そのコストが自治会にとって重い負担となっていた。今回助成をいただいたことで、造り物の修理ができた。
- ▶合わせて、「城南民話の会」に協力をいただき、沈目大蛇の伝承を紙芝居として仕立て、地域の子どもたちにも造り物のいわれや文化を知ってもらうことができた。「城南民話の会」には今後も、紙芝居の公演などをしてもらう予定。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★ 成果はあったが成功は微妙
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶親子が楽しめるイベントを行い、若い世代はもちろん、おじいちゃんおばあちゃんを含めて親・子・孫の3世代丸ごと、もちつき大会や稲作体験などの集落の営みに引き込んでいきたい。

課題点・反省点

- ▶若い子育て世代の自治会運営への参加が少ない。地域コミュニティの存続を考える上で、今後は、いかに若い人々を巻き込むかが大きな課題でもある。
- ▶より多くの住民に地域行事に積極参加してもらい、地域コミュニティの活性化をしていきたいところだが、住民の意識を変えるには村全体の雰囲気を変える必要がある、そう簡単ではない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶物事はそう簡単には変わらない。粘りよく小さくても前に進めていくこと。成功の秘訣は途中で放り投げないこと(だと、自分にも言い聞かせている)。



氏神である小木阿蘇神社の祭礼で行われた沈目大蛇踊り



ピザ体験の風景



紙芝居の完成は、地元紙にも取り上げられた



沈目公民館の落成式に集まった住民たち



落成式では手作りピザの体験会も



落成式行われた、雨乞い大蛇の紙芝居の披露

葉ニンニクやタマネギを地域の特産品に！
食育や収穫体験など、消費者との交流も。

〒861-4234 熊本市南区城南町永 444-1 ●電話：0964-27-4417 ●代表理事長：大澤洋一 ●組合員数：233名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶熊本すぎかみ農場は、地域の活性化へ向けた取り組みとして、葉ニンニクやタマネギの作付けに挑戦。城南町の新たな特産品として根づかせ、消費者に地元農産物の良さをPRしていく。
- ▶里モン交流会で出会った消費者団体との交流で、収穫体験や、子ども向けの食育活動の機会が増えた。
- ▶レシピを作成し、「玉ねぎ詰め放題」などのイベント時に消費者にわかりやすくPRができた。収益アップにもつながった。
- ▶当初は加工事業に取り組みたいと考えていたが、消費者団体との収穫体験や交流をきっかけに、リアルな消費者のニーズを知ることができ、取り組みの方向性を見直すことができた。

自己評価

- | | | |
|----------|------|--------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶タマネギの収穫体験や詰め放題を消費者交流型の大きなイベントにしていきたい。また、一歩進んで、タマネギ加工などにも取り組んでいきたい。
- ▶就労継続支援A型事業所と連携し、栽培を行っており、「農と福祉の連携推進事業」を活用しながら定着させていく予定である。

課題点・反省点

- ▶タマネギや葉ニンニク等は天候により、思うように生育しなかったため、当初の計画通りにはできなかった。また、すぎかみ農場ではタマネギ栽培に力をいれているが、収穫時期に行うイベントと、里モン事業の採択期間が重ならないのが残念。今後はタマネギ時期のイベントに期待したい。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶しっかりと目標をもって取り組むこと。里モン交流会などは他の団体と交流できるきっかけでもあり、いろいろな情報や連携につながるものなので、是非参加してほしいです。



タマネギの詰め放題イベントは毎回好評



加工研修 レシピを添えて利用促進に



消費者団体による収穫体験。幼少期に野菜と土に触れることで、食育と情緒形成も



熊本の復興復旧フェアでの販売の様子



就労継続支援A型事業所の支援作業。農福連携へ



消費団体による葉納豆づくりの体験

JR網田駅を県内屈指のさくらの駅へ！
桜を植栽し、物販収益でその後の管理も継続。

〒861-3172 宇土市上網田1038 NPO法人 網田倶楽部 ●電話：0964-27-0166 (網田レトロ館) ●代表：益田信明 ●会員数：25名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶里モンプロジェクトのおかげで網田駅周辺に約50本の桜を植栽出来ました。また植栽後の桜の手入れについては、年4回の除草作業をはじめ支柱の取り換え等を実施している。なお維持管理費を捻出するため毎年、物販等で得た収益を充てている。
- ▶参加した地域住民や当倶楽部メンバーの地元愛を育む活動となった。
- ▶当倶楽部の活動に対する地元住民の理解が深まった。

自己評価

- | | | |
|----------|------|--------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶まだ桜は小さいが、成木になったときに網田地区の居住環境の良さを象徴するものになると確信している。本補助金活用後も、物販等の収益をもとに現在約100本を植栽した。10年後には「県内屈指のさくらの駅」として定住促進にも寄与するものと考えている。

課題点・反省点

- ▶植栽後の維持管理費を含め、全般的な活動費をどう調達するかが課題。何をやるにも資金が必要。「まちづくりは金づくり」。今後も物販等による資金調達で活動を継続していきたい。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶何をやるにも費用を伴う。自己負担のない里モンプロジェクト等の有効な補助金を活用し弾みをつける一方、今後の活動を支えるため自前の資金調達も重要。



植栽した桜や菜の花で彩られた網田駅。週末限定の駅カフェの運営や、景観にマッチするレトロな電話ボックスの整備など、活動にも発展が

熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

耕作地を利活用した農作物や花の栽培を通じ 住民協働のむらづくりを実施。

〒861-4704下益城郡美里町涌井1793 庵室区むらづくり実行委員会 ●電話：0964-47-2083 ●代表：田上和則 ●会員数：50名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶耕作放棄地を利活用し、農作物の作付けを行い、協働で作業することの大切さを地域住民に理解してもらう一助とした。また、そうして栽培した作物を販売し、地域活動の資金源としている。
- ▶秋そばの種まき～収穫を地元の子ども会と一緒にいき、そば打ち体験を実施。子ども世代への協働理解を促した。
- ▶地域の景観保全を目的とした「花いっぱい運動」を展開。土手などに花の苗を植えて花壇とし、竹プランターを村中に設置した。また、耕作放棄地にはコスモスを植え、住む人、訪れる人の目を楽しませる仕組みを実施した。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶実行委員会としての活動を継続していきたい。
- ▶活動に参加する人がいつも同じであるため、今後は子どもを含めて多くの人が参加できるような活動を展開していきたい。

課題点・反省点

- ▶現在活動中の中心メンバーと、そのほかの地域の人との活動に対する温度差がまだあるように感じる。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶活動の中心となる人が地域の人たちを引っ張っていくことも大切だが、地域の人たちが自ら考え行動に移せるような、いわば黒子としての役割も大事である。



轟水源と石橋公園の池を整備し、子どもたちの声が響く場所に。蛍の舞う、美しい里山を目指す。

〒869-0456宇土市石橋町316-1 石橋組合 ●電話：0964-22-5032 ●代表：山之内信喜 ●会員数：11名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

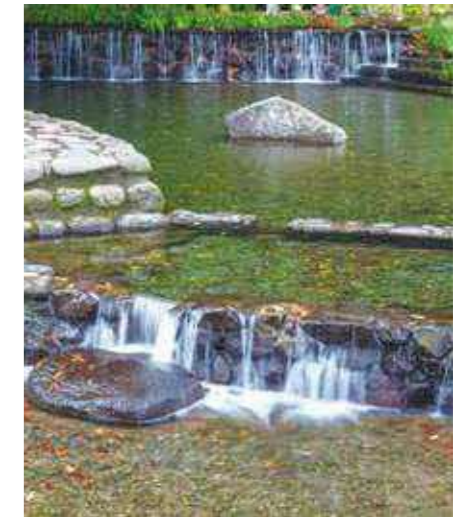
- ▶子どもが遊べるよう、石橋公園の池を清掃し、水管理も行った。蛍が舞う自然環境を目標に、活動を継続している。会、役員、地域の多くの人たちが協力してくれた。
- ▶蛍の納屋を設置し、たまごを入れて「蛍の里」へ。
- ▶池の復活を目指して、石橋組合11名(70歳前後)が和をもった美化活動を行う中で、組合員だけでなく区の人たちとのふれあいも広がっていった。
- ▶轟水源、公園を訪れる人たちが、来るたびに「池が良くなってよかった」と言ってくれて、活動への手応えを実感する。さらに、石橋公園と池のまわりで子どもたちが遊ぶ姿が見られるようになり、いこいの場になってきている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶蛍が舞う自然環境を目標に、区長を先頭に活動を継続していく。
- ▶明るい絆をもった昔ながらの日本の里山を復活させる。



轟水源

[工事前の石橋公園]



[工事後の石橋公園]



地域の歴史や伝統的な暮らしの知恵を継承。子どもやシニア向けの講座できっかけ作り。

〒869-3173 宇土市下網田町 1344-1 ●電話：090-6124-7290 ●代表：森谷崇 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶移住体験ツアーを開催。分野毎の相談役と連携を図り、移住者を迎える上での地域の協力体制を整えることができた。地域の中の受け入れ意識も高まりつつある。
- ▶都市圏の人たちに、宇土を移住候補地にあげてもらうためのPRを実施。参加者集めに苦慮し、予定していた日程で開催することはできなかったが、その分、地域内外との連携を深める時間を確保でき、日程を変更して実施したツアーでは、観光・農業・漁業・地域活動など様々な人との交流を図ることができた。
- ▶地元の柑橘農家さん(生産者)宅を訪れ、柑橘についてのお話や、食べ方をレクチャーしてもらったり、「宇土朝飯を喰らう会」の人脈を生かし、他団体や人となつないでもらうなどしている。また、「NPO法人網田倶楽部」にはイベントに協力いただくなど、他団体との連携で活動の幅を広げている。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★★★	成果はあったが成功かは微妙
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶行政の担当課や、ハローワークなどにもつながりを持ち、情報収集を行いながら、住まいや仕事、コミュニティをセットで提案できる体制を整えていきたい。

課題点・反省点

- ▶初めてのツアー実施ということで、計画通りの人数を集めることはできなかった。移住を希望する層へのPRなどアプローチの方法を考えたい。
- ▶フ移住定住に関する具体的・金銭的な支援策が宇土にはなく、移住を考える際の候補地としてPRできるポイントが少なかった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶コアメンバーで活動の目的や方向性、団体のあり方などの理念をしっかり共有することが大切です。また、これらを踏まえて、多くの人に活動のことを伝えることも必要だと思います。



先輩移住者の職場訪問。陶芸窯のある高台で移住話を聞く



先輩移住者やUターン者との交流会を行う



地域のイベントにも積極的に連携



網田レトロ館をはじめ、地区内の団体とコラボも

障がいのある人たちと地域住民が協働。美しい景観と地域の元気、新たな絆の芽生えに。

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1786 熊本こすもす園 ●電話：0964-33-4551 ●園長：沼田宗生 ●利用者数：約100名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶地域の耕作放棄地をひまわり畑にするとともに、交差点横の高木を伐採することで、地域の景観を良くし、地域住民の方に喜んでもらう。
- ▶障がいのある人たちと地域農家などが協働することで、地域間の人材交流と活性化につながっている。
- ▶道路沿いの荒れ果てた耕作放棄地(約10アール)がひまわり畑に変わったことで、景観が美しくなった。
- ▶交差点横の高木伐採は交通事故防止の効果があつた。
- ▶里モンプロジェクトを活用し、取り組んだおかげで、地元農家とボランティアとの交流の機会ができ、ボランティアからは事業継続に向けた協力の申し出があつた。
- ▶地域住民から、景観が良くなったことへのお礼を言われた。
- ▶他の耕作放棄地所有者から土地の活用依頼があつた。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶地域の中には他にも耕作放棄地が多いため、今後も可能な範囲で補助金等を活用しながら、取り組みたい。
- ▶参加してくれたボランティアから、継続的な協力の申し出があつたこともあり、こうした作業を通じて地域のさまざまなグループや事業者との交流を続けたい。

課題点・反省点

- ▶里モンプロジェクトの交付決定の関係で、ひまわりの播種の時期が遅れ、満開にまで至らなかった。こうしたことも考慮し、次はコスモス畑を作ろうかと思う。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶事業採択のタイミングを考えながら、時には柔軟に調整していくことも必要。
- ▶活用することで広がるものもあるので、まずは取り組んでほしい。



障がいのある人たちと地元の農家さんたちが協働し、道路沿いの耕作放棄地を整備。ヒマワリを植え付けた



市指定天然記念物の榎群を植樹・保存。
清掃・美観活動などで、地域の愛着を育む！

〒869-0441 宇土市石小路町 110 ●電話：090-8761-8366 ●代表：小山龍次 ●会員数：23名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶市指定の天然記念物「船場川河畔の榎群」の保存と植樹を主軸に据えた活動としてスタート。この榎群は樹齢が200年近くの本木で、路面舗装などの周辺環境の悪化もあり、腐食や空洞化が問題視されていた。両側の河畔に12本あった榎のうちその時点で2本は倒木。のこる10本も倒木の恐れがあったため、これらを含めた保存と、次世代へつなげる植樹を行うことになった。
- ▶川へのゴミの不法投棄が著しかったこともあり、本会の代表がメインとなって8年間清掃活動を実施。今では不法投棄されたゴミは見かけなくなった。
- ▶植樹は環境に関心を持ってもらうことや、後継者を育てていくことを目標に、小学校高学年と中学生にも参加を呼びかけている。
- ▶年2回の船場川クリーン作戦を実施。毎年400人近くが集まり、草取りや川の清掃作業を行っている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶本会を継続させるには、次世代のリーダーシップをとれる人材の確保が必要。たとえ理念が高邁であってもすべてがボランティアとなれば、なかなか会員の拡張にもつながらない一面がある。そういった意味でも今後も「里モンプロジェクト」のような制度があれば、ありがたいと思う。

課題点・反省点

- ▶まずは里モンプロジェクトの制度に感謝したい。
- ▶里モンプロジェクトの存在自体が知られていない。
- ▶活動に取り組むまでの手間がかなりの負担である。
- ▶事業収支決算報告書の簡略化を図れないものか。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶連携・協力は当然。先に挙げた「船場川クリーン作戦」は、小中高校生、ライオンズ倶楽部、ロータリー倶楽部、一般企業、住民、船場川10年後委員会、行政等と綿密に連携している。特に市役所が随時開催する「ボランティア団体懇談会」は情報交換に役立つ。



樹齢約200年の榎の本木。倒木被害後の整備を行った 河川敷には花しょうぶも クリーン作戦後はすっきりと 石橋の再建が見られるのは今ならでは

立岡自然公園を四季を通じて楽しめる公園に。
花の時期に併せてイベントを開催し交流促進。

〒869-0415 宇土市古保里町735-1 花園クリエイティブクラブ ●電話：090-1087-2625 ●代表：上村友男 ●会員数：22名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶立岡自然公園を四季を通じて楽しめる公園に。
- ▶桜の時期以外は雑草が生い茂り、訪れる人もほとんどなかった公園奥地を整備し、初夏(5月半ば~6月半ば)は花しょうぶ、秋(9~11月)は約400mのコスモス通りを実現。ミニコンサートや接待をする「花しょうぶ祭り」のほか、花の開花に合わせて物産展を実施。会員手作りの野菜やクラフト等を販売することで生きがいに。マスコミ告知で幅広く集客し、様々な交流が広がった。
- ▶花しょうぶは0からスタート、5年目には約3万本に。
- ▶50年ぶりに池の清掃に取り組み、地域の区長会、老人会、青年団、婦人会等、多くの人が協力してくれた。
- ▶地元保育園から感謝され、小中学校とのコラボや高校生ボランティア等、子どもたちとの交流も活発に。
- ▶「ニッセイ財団」の「いきいきシニア活動団体」で表彰。事例発表や新聞など、活動に注目される機会が増えた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶音楽イベントの充実。
- ▶イベントに併せた物産、特産品の販売。
- ▶補助・助成制度だけでなく、事業化することで活動を継続しつづける。
- ▶活動を通じ人材・文化交流を図り、住民が元気に。

課題点・反省点

- ▶正会員が高齢化してきている。
- ▶公園や周囲も確実にきれいになってはきているものの、活動の予算が少ないためにダイナミックに変化していることをPRできない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶発起人は単独でも複数でも、最後の一人になってもやり抜く気持ちを。リーダー次第の点もある。
- ▶目標は明確に、計画は具体的に。
- ▶会の運営は楽しくをモットーに。
- ▶行政に頼りすぎない。
- ▶活動はやろうと思った時がベストタイミング。



コスモスの植え付けには、小学生や保護者なども参加。毎年秋にはたくさんのコスモスで彩られる



花しょうぶは5年目で3万本に 50年ぶりに行った池の清掃

交流人口を増やす！を目的に、住民とともに。
いまや美里は、全国的なフットパス先進地へ。

〒861-4406 下益城郡美里町馬場 749-1 合同会社フットパス研究所内 ●電話：0964-53-9997 ●代表：日方和義 ●会員数：100名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶「交流人口を増やす」を目的に、そのツールとして、2011年より日本型のフットパス(英国発祥)づくりに取り組んでいる。地域の日常の暮らしの中を「歩く」ことによって、人の交流が生まれ、都市住民の癒やしと地域住民のいきがい、そして経済的効果や定住促進につながっていく。
- ▶イベント開催はそのきっかけ提供で、個人がセルフで地域を訪れて歩くことを普及するのが目的である。
- ▶里モンプロジェクトによって案内板やコースサインを整備することによって、住民にも訪れる人にもコースという認識が普及し、フットパスの普及にもつながっている。現在は15のコースが設定され、見直しも重ねられる。
- ▶収入源は、会費、イベント参加費、マップ販売など。またフットパス研究所に事務委託をしている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

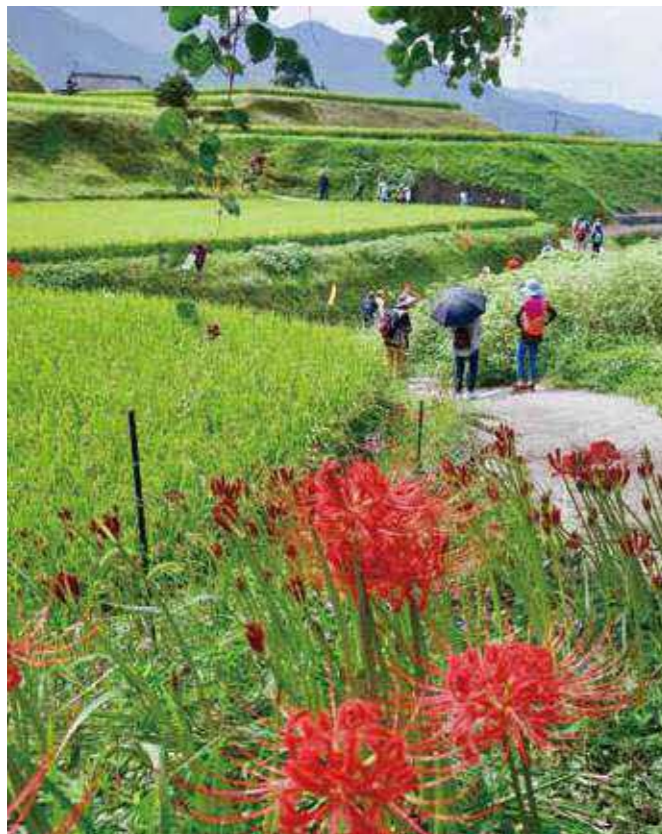
- ▶熊本県で「Walkers are Welcome くまもと」という動きが始まった。それに合わせ、フットパスの普及だけでなく、「歩くなら熊本へ」を推進していきたい。
- ▶外国の方も歩いて満足されているが、「情報が少ない」という声も多い。情報発信も含め、「歩く熊本」の推進を！

課題点・反省点

- ▶美里町ではうまくいっていると自他共に評価しているが、他の地区ではコースを作ったものの維持できないというケースもあると聞く。気軽に相談してほしい。
- ▶フットパスでは、「押し付け」にならないガイドのスキル向上が大事。他の地区のガイドの育成もお手伝いしていきたいと思う。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶目的をはっきりさせ、目的に合わせた活動を段階を追って調整することが大事。シナリオ通りにはいかないと割り切り、形にこだわらず、柔軟に関わる人を増やす。
- ▶会議室より、現地へ。



棚田をゆくフットパス参加者たち。美里町には現在15のコースがある



イベントの昼食は食の体験で。美味しさはもちろん、人の交流が楽しい

地元女性たちの「絆プロジェクト」。
そばの栽培とそば料理、ひまわりで美観活動も。

〒861-4703 下益城郡美里町畝野 1575 ●電話：0964-48-0235 ●代表：高田薫 ●会員数：15名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶JA女性部、地域婦人会の会員からなる生活研究グループ。それぞれの会費は、フットパス受け入れの食事代として得たものや、リサイクル活動の売上げ等から負担。絆を深めるための日帰り家族旅行も、前期の売上げから捻出し、個人負担を少なくするなどの工夫も。
- ▶草刈りやそば畑のトラクター作業、パソコン作業などは地域の男性陣の協力ももらっており、心強い。
- ▶防災訓練や、70歳以上を対象とした「イキイキサロン」における昼食づくりなど、私たちのグループが中心となって地域の絆を深める取り組みになることを意識している。
- ▶そばの栽培を行っており、これを美里物産館「よんなっせ」に販売している。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶観だけではなく、実益にもつなげることで老いてもさらに元気が出るかもしれないので、今後は「軽トラカフェ」などにも挑戦してみたい。

課題点・反省点

- ▶山手にある耕作放棄地に、カラーの苗と菖蒲の苗を植えたが、イノシシに食べられてしまった。球根だったからいけなかったのかもしれないので、次は違うものを考えたいと思う。
- ▶若い人に入ってもらいたい。次の世代が入ってくればこの活動も続いていくが、今の人は60歳を過ぎても仕事を続けている人が多く、メンバー勧誘が難しい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶地域の人たちと話し合いながら、みんなの意見も取り入れて活動をして欲しいです。



ひまわりの花が終わったら、ソバの植え付けにはいる



ひまわり畑はフットパスでも人気



そば打ちの研修も受講



ブリコという道具でそばを叩いてあやす



フットパスのお客様をソバ料理でもてなし



ソバの実をふるいにかける



ソバの実をトーミにかけて選別

水上・迫地区美化活動会

交差点の視界を遮る木を伐採し、見通しを改善。
生まれた空き地にアジサイを植え、景観整備も。

〒861-4703 下益城郡美里町畝野 ●代表：渡邊征喜 ●会員数：38名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶ 廃墟化して久しかった国道218号と町道との交差点の両サイドの整備。見通しをよくして交通事故の減少化を図るため、ジャングル化した樹木を伐採した。
- ▶ 樹木の伐採で生まれた空き地には、紫陽花350本と芝桜1000本を植樹。都度、草刈りや肥料を施しながら、景観の維持管理を行っている。
- ▶ 美里町のロッジやフォレストアドベンチャーの利用客にも大変喜ばれ、特に観光客からは「車で出入りが安全にできるようになった」と感謝される。美しい景観が保てるだけでなく、見通しが良くなったことで鳥獣のねぐらがなくなり、界隈の獣害も減ったように感じている。
- ▶ 圃場整備後、法面を拡大した場所では草刈りがおろそかになりがちだったが美意識が向上したのか、近頃そうした場所でも自主的に草刈りをする姿が多く見られる。
- ▶ そばを歩くフットパスの人たちが寄り道してくれる。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶ 荒れ放題の田園の法面がまだあるので、そうした場所の美化にも努めていきたい。
- ▶ ジャングルのようになっている森の伐採とともに、景観をよくする桜や紅葉の植樹を行っていきたい。

課題点・反省点

- ▶ まだ美しくするべきところはたくさんあるが、会員の高齢化で維持管理が大変になりつつある。
- ▶ 美化活動は準備期間を長く要するため、もう少し補助金の活用期間や申請期間を長く確保して欲しい。
- ▶ 邪魔な空き家が残っている。景観のためにも空き家対策も合わせて行いたかった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 活動はいつまで終わらず、継続させていくことが大切だと思います。



視界をさえぎっていた樹木を伐採し、生まれた空き地に紫陽花や芝桜を植樹。春～夏の美観が生まれた



法面の草刈りが積極的に行われ、棚田の風景も美しくなった



沿道の見通しがよくなったと好評

三角サトウキビ活性会

かつて盛んだったサトウキビ栽培を復活。
黒糖製造や実演会、小学校との協働で地域活性。

〒8693413 宇城市三角町里浦814 ●電話：0964-54-0790964-54-1114 ●代表：高濱希好、事務局：宮川孝寿 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 三角地区でかつて盛んだったサトウキビ栽培を復活させ、往時の風景を蘇らせた。そんな思いから、耕作放棄地を活用したサトウキビ栽培に取り組むことにした。
- ▶ 高齢者を中心に栽培をはじめ、里モンプロジェクトの助成金を活用して製糖するための移動式の「釜」を購入。生産者が持ち込む黒糖を、活性会で製糖し、製品となったものを持ち帰ってもらうスタイルを構築。
- ▶ 製品を販売する人や、自宅用・周囲への贈り物などに使う人などさまざまだが、地元の小学校の教育活動に組み込んだり、道の駅等での製糖実演などを通じて、三角の伝統作物と営みへの周知もできつつある。
- ▶ お手伝い、ボラティアという感覚から、自分が栽培をすると意気込む高齢者も数人いて、収穫・製糖時期には毎年3~4件の持ち込みが続いている。継続的に活動をつづける中で、移動式から固定釜に移行した。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★ 成果はあったが小さかった

今後の展望

- ▶ 製糖した黒糖で、会員への日当が十分に支払えるよう、生産者の増加と安定供給、販路の開拓にも努めていきたい。

課題点・反省点

- ▶ 耕作放棄地となっていた畑を耕すきっかけとしてスタートしたが、作付面積の拡大と栽培者の増加は思うように進んでいない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 続けていくことが大切だと思う。



宇城市の道の駅直売所「サンサンうきっ子宇城彩館」敷地内で行われた黒砂糖造り実演会の模様

昔ながらの工程で黒砂糖を製造し、サトウキビの棒巻きにして無料配布。黒砂糖の持つ成分や地元産サトウキビの魅力を来場者にPRした

三角の新たな特産品づくりを目指し、耕作放棄地で、新たな収益作物を開拓中。

〒869-3204 宇城市三角町中村 1576 ●電話：080-1793-0498 ●代表：坂本壮一朗 ●会員数：6名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

▶三角の耕作放棄地を活用し、新たな収益作物の開拓を行った。まずはカボチャに着目し、収量の上がる立体栽培と、普通の地這えカボチャの2種類を作付けした。最初は順調に生育していたものの、3回の台風にあい、徐々に生育が悪くなって枯れてしまった。わずかにのこったカボチャを試食してみると、熟す前に生育が悪くなったため、味が薄く実が少なかった。
▶立体栽培が確立し、収量が増えれば栽培方法を地域の人へ伝えて三角の特産品にできればいいと考えていたものの、栽培がうまくいかなかったため、まだ模索中。
▶耕作放棄地を活用したことで、周囲の農家さんからは「畑が管理されていたので害虫が寄ってこなくてよかった」といってもらえた。また、若手農家のグループで活動していたので、微力ながら周りの農家さんに元気が生まれたのではないかと、地域の担い手として頑張りたい。

自己評価

物理的成果・売上 ★ 成果があったとは言えない
交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
元気・やる気 ★★ 成果はあったが小さかった

今後の展望

▶耕作放棄地を活用して何かできないか、今後も模索しながら活動を続けていきたい。近年、自然災害が増えているので対処を考えながら作物をつくっていききたい。
▶地域の担い手として、地域の方々から期待をされているものの、高齢化と担い手不足で耕作放棄地は増えていくばかり。畑の維持管理を今後どうすればいいか、アドバイスがほしい。

課題点・反省点

▶台風の時期をずらして作付けを行うべきだった。
▶また、プランターを使った立体カボチャ栽培をしていたが、プランターの土の量を増やし、根をしっかりと張らせなければならないと思う。プランターが小さくて生育がうまくいかなかったこともあるので、十分に根域を保つことを考えて、サイズの変更などを検討したい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶次につながるよう、経験を振り返りながら、反省点や改善点を見つけてチャレンジしてほしい。



うまくいけば1つの株から5~6個収穫ができるといわれる立体栽培



ツルが上へ伸びるよう、プランターの上に支柱と網を張る



植え付け準備。この際、根張りを考えてサイズを検討すべきだった



培土を投入



縦横に並べて作付け



夜に集まって栽培勉強会も



試食したが味が薄かった



台風被害を免れたカボチャ

農業者が大学や移住者、加工グループと連携。有機米の付加価値向上へ向けた取り組み。

〒861-3452 上益城郡山都町田小野 1261 ●電話：0967-75-0174 ●代表：野口慎吾 ●会員数：5名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

▶有機米を栽培し、JAへ出荷する農業者で構成された団体に、有機米の付加価値向上へ向けた活動を行っている(現在は名前を変更し、活動を継続)。
▶農地の共有化を呼びかけ、有機栽培によるもち米・大豆・緑肥栽培に取り組んだ。
▶実地圃場および、熊本県立大学における成育試験を並行し、調査を行った。大学内の実験圃場で可能な限り、幅広い品種で適性試験を行った。
▶データ蓄積とともに、参加者(移住者)との意見交換や料理講習を通し、資源循環と環境保全型農業を推進するとともに、くまもとグリーン農業やブランド化、6次産業化への寄与を目指した。
▶地域の味噌加工グループと協力し、新たな希望者を受けて有機米を使った発芽玄米味噌を造るプログラムも。
▶竹資源や緑肥など、地域資源の活用が見えてきた。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶地域における社会資本である農地を、里モンの新たな担い手となる移住者と共有する仕組みとして、集落において資源を生産・活用・共有し、分かち合う集落の取り組みへと展開する過程の蓄積(継続)として、事業の継続が必要だと考えている。

課題点・反省点

▶中山間地域には、人材が足りない。マネジメント人材、集落マネージャーなど、中山間地直接支払制度(組織へのプール金)の有効な活用策として、外部人材の登用=集落支援員(地域おこし協力隊)制度との効率的な組み合わせが必要なのではないかと思う。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶どのようなことが成功するかわからない時代だからこそ、若い学生団体も含め、いろいろなことに大胆に取り組んで欲しい。



米麴づくり。蒸した米をほぐして麴菌をまぶしていく



見事に麴の花が咲きました



三升漬けづくりに挑戦!



「三升漬」は麴と醤油で漬けた保存食



◀◀納豆づくり体験の様相

山都町の地域資源を活かしたPR。 今後、子育て世代への継承と交流の場づくりも。

〒861-3665 上益城郡山都町犬飼384 山都のやまんまの会 ●代表：下田美鈴 ●会員数：23名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

▶福岡市天神で「山都ん！よかとこ宣伝隊」というPRイベントを実施。前年度に実施した「山都んよかとこコンクール」に応募された写真をパネル展示し、写真集「山都んよかとこノート」の配布を行った。そのほか、山都町の野菜や加工品、当団体オリジナルの開発商品を販売した。

▶平成26年4月にNPO法人を設立。これにより安定的な組織運営を行えるようになり、団体としての社会的信用が得られた。助成金や補助金などを受け、活動を継続している。

今後の展望

▶キーワードは「食」と「教育」。

▶安心・安全な山都町の地域資源を活かした商品開発と販売を拡大していきたい。長期ビジョンでのまちづくりは子育てと教育が重要なので、未来を担う子どもたちや子育て環境にある保護者を対象に「食」「農」「暮らしの知恵」などの体験、継承と交流の場を提供していきたい。

課題点・反省点

▶女性だけの団体として活動していく上で、一番の問題点は人材不足。やる気はあっても、それぞれ家庭や仕事があるため、実際に動ける人が少ない。なかなか参加できないことで遠慮したのか、退会者も増加した。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶できる人ができるときにできることを。無理をしたら活動は長く続かない。小さなことの積み重ねでもいので、自分たちが今できることを長く続けていくことが大切だと思う。



「山都んよかとこ宣伝隊」として、福岡都市圏で山都町産の野菜や加工品を販売



森を歩いて地域の魅力を探すイベントや田んぼの学校を開催。たくさん子どもたちが参加した



桜やツツジに彩られた「山神山の杜」。 登山道や東屋に手をを入れて、集いの場に。

〒861-3518 上益城郡山都町浜町 1863 ●電話：0967-72-9400 (やまと文化の森/山口) ●代表：堂上讓二 ●会員数：25名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

▶「山神山(さんじんさん)の杜」は、植栽された数十本の桜やツツジに彩られ、花見や散歩、ハイキングなどを目的に、町内外の多くの人々が訪れるスポットとなっていた。商店街のどこからでも見渡せるこの杜は長年にわたり、町全体に華やぎを生み、誇りを育む地域の宝でもある。ここに苗木や花を新たに植栽し、草刈りや剪定などを適宜行いながら美しい景観を保つことで、地域住民に活気をもたらすことができなかと考えて始めた取り組み。

▶助成金を用いて東屋を修復・整備し、登山道の整備や清掃等を行ったことで、公園が見違えるようになり、再び脚光を浴びること。今では、山都町の新たなスポットとなりつつある。

▶自動車用道路整備で、登坂の利便性が高まった。

▶具体的な住民増にまでは結びついていないが、活動を通し、地域内に新たな住民意識が生まれつつある。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★ 成果はあったが小さかった
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶近接する他の商店街との連携も視野に入れながら、これまでの活動をできる限り持続させるよう努力していきたい。

▶隣接する自治会等と協力して、これまでの行事の継続を図っていきたい。

課題点・反省点

▶いづこも同じだが、高齢化による活動の衰退・減退は近年の大きな課題。急激に進むコレラの減少をどう克服するかは地域内の大きな課題でもある。

▶高齢者の増加と、地域全体の意識低下が活動者の減少を招いている。

▶今後はそれらの諸行事内容の改革も含めて、今後のあり方を工夫したい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶地域に対する誇りを持って欲しい。

▶地元出身の有無に関わりなく接して欲しい。

▶地元同様、協働する相手地域に対する尊敬の意も強く持って欲しい。



老朽化していた東屋を、里モンの助成で修復・整備。作業中や散策客の憩いのスポットに



継続的な整備活動を続ける住民有志



ハイキングシーズンに備え、草刈り作業



法面の整備もしっかりと

大野の宝物を生かした「食の文化祭」。 都市農村交流と笑顔いっぱいプロジェクト。

〒861-3905 上益城郡山都町大野 347 ●電話：090-8768-2648 ●代表：坂本美喜雄 ●会員数：40名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 廃校となった小学校を活用し、家庭料理を持ち寄る「大野のごっつお大集合」から発展させ、「大野笑楽校ふるさと秋祭り」と題し、地域内外の人たちの交流の場に。廃校に再び子どもの声が響くようになり、住民の元気につながっている。
- ▶ 「おおのまなび舎カフェ」では、年4回の季節イベントによる交流や、週2回の定期カフェで地元産品の紹介などを行っている。
- ▶ 月に1度、地域の高齢者が集い、料理教室から派生した「ハッピーランチ会」を開催。そのほか、学習塾や音楽、ピラティスなどの教室も開催され、長年地域のシンボルだった小学校に寄せる地域の思いや、人々の協力でさまざまな展開を試みる事ができている。
- ▶ 地域の食文化の保存継承を目的にレシピ集を制作。
- ▶ 地元でとれた野菜を乾燥し、販売する「かあちゃん工房桜舎」が立ち上がった。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ 施設(旧大野小学校)がある限り、地域の拠り所として活動を続け、地域を出た人や、都市部の人が気軽に訪れることのできる場所としての環境づくりにも努めていきたい。

課題点・反省点

- ▶ 地域を担う人材が足りない。選ばれた人材を中心に展開しているが、活動が長くなるにつれていずれ高齢化が心配される。
- ▶ 施設が老朽化し、今後の修繕費用等が心配される。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 地域の良さを知り、地域を支えることを継続して行って欲しい。



大野のごっつお大集合に集った皆さん



リサイクルバザーなども好評



大野のごっつお大集合の風景



会場では、ふるさとの生活道具の展示も



ステージイベントで大盛り上がり



成果品のレシピ集を作成



日田などへ視察研修も

竹や雑木の茂る山を整備し、景観保全。 伝統の炭焼き窯をつくり、里山資源の利活用も。

〒861-3208 上益城郡御船町滝尾 6523-112 ●電話：096-282-6770 ●代表：渡邊俊一 ●会員数：11名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶ 荒れた山を整備するため、竹林の伐採作業を行った。伐採した竹を有効に使うため、地域の人たちから技術を学びながら、竹炭焼きにも挑戦。不慣れながらも故郷の保全と地域交流をでき、有意義な活動となった。
- ▶ 焼いた竹炭は、河川浄化に用いた。竹炭づくりから、利用法までをイベント仕立てにし、参加者にも共に学んでもらうことで、竹炭や環境保全意識の普及に努めた。
- ▶ 地元で伝承されてきた炭窯を、伝統的な工法で新たに築造し、自作した窯で木炭の生産をスタートした。
- ▶ 自作の窯で何度も木炭を焼いたことで、炭焼き技術をしっかりと身につけることができた。
- ▶ かつて炭焼きをしていた高齢者が炭窯づくりに協力してくれ、見学に訪れるなど高齢の方々との交流ができた。
- ▶ 地域の方から里山の整備を依頼されるようになった。

自己評価

物理的成果・売上	★★★	成果はあったが成功かは微妙
交流・雇用・定住	★★★	成果はあったが成功かは微妙
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ 炭焼きの経験を積み、先人たちが作り上げた伝統的な炭窯を自らの手で築き、地道に技術を習得したい。
- ▶ 炭焼き体験プログラムの構築などを通し、炭焼き技術の伝承を目指したい。
- ▶ 木炭の販売を促進し、活動資金にあてていきたい。
- ▶ 里山整備につながる他の活動を模索していきたい。

課題点・反省点

- ▶ 助成金をいただいている期間の活動については労働賃金を支払うことができたが、それ以降、助成金がなくなってからは木炭の売上げで活動を行った。が、機械類の購入費がかさみ、労賃も支払えず、ボランティアでの作業となってしまった。いかに効率よく作業を行い、木炭販売額を伸ばすかが今後の課題。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 自然に囲まれた環境で生活することの意義と効用に着目した新規事業を考えて欲しいです。経済的な豊かさの追求から、精神的な豊かさの追求へと次代は大きく移り変わっているという自覚が大切だと思います。



整地し、炭窯を設置。土止柵をつくって炭焼き小屋を立ち上げる



山から竹を伐り出し、長さを揃えて窯入れの準備



竹炭づくり体験会の模様。小雨にも関わらず多くの参加者が訪れ、里山保全、炭の活用方法を学んだ。焼き上がった炭は川の浄化に



お手製の炭窯で竹炭づくり



水質浄化作用や消臭力でも注目される竹炭

粉砕機でチップ状にし、有機分解装置に提供

東竹原自治振興区 東竹原笑談会

フットパスを通じて地域内外の交流を促進。
みさを大豆の保存と活用で、地域を元気に。

〒861-3935 上益城郡山都町東竹原97 東竹原自治振興区東竹原笑談会 ●電話:0967-83-1111 ●代表:田上満則 ●正・準会員:30名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶山都町東竹原地区の地域文化の保存と継承などを目的に自治会地域づくり部会と、地域づくりの有志グループ「東竹原笑談会」が核となり、年2回(春と秋)のフットパスツアーを継続実施している。
- ▶年4回、対外的な地域イベントを開催している。
- ▶秋には「森林浴とみさを大豆弁当を食べる」ツアーを企画した。春と秋のフットパスの参加者には、地域資源のひとつ「みさを大豆」の水煮をお土産に。みさを大豆弁当や手作りの料理を振る舞うなどしている。
- ▶春のフットパスは、午前にはフットパスのまちあるきを開催。午後は山都町無形文化財「年祢神社」の「田植え踊り」の祭りに参加する。
- ▶みさを大豆の収穫や味噌造り体験を実施。また、里モンを活用して、みさを大豆のレシピを開発。みさを大豆の水煮を購入してもらった人にプレゼントし、認知促進に努めた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶定着してきた春と秋のフットパスツアーを継続していく中で、地域の学校とのツアーなども恒例化していきたい。
- ▶点と線で楽しむ活動を、面の活動にも広げたい。
- ▶地域資源「みさを大豆」の保存を楽しむことを第一目的に、フットパスなどと併用し地域を元気にしていきたい。旧東竹原保育所を地域資源資料館にしたい。

課題点・反省点

- ▶活動目標を自分たちの健康第一、そして楽しむ余力があれば地域発信をして域外の方々との交流を盛んにすることを目標にしており、これがほぼ達成されているが、さらなる知名度アップに努力したい。



春のフットパスツアーの風景

みさを大豆の収穫体験やみさを大豆を使った料理の試食会のほか、水煮の販売なども行った

ましきフットパスの会

断層地と数多くの文化財を持つ町ならではの
フットパスにより、交流と地域文化の継承も。

〒861-2243 上益城郡益城町辻の城 98-3 ●電話:096-289-1243 ●代表:赤星信幸 ●会員数:10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶熊本地震からの復興と農山村の活性化を願い、そのきっかけとしてフットパスの取り組みをスタートした。
- ▶里モンプロジェクトにより、砥川コースで13ヶ所、上棟下棟コースで15ヶ所の文化財史跡を設定し、フットパスイベントの際には事前に清掃活動を実施。マップに要点を記し、会員や文化財保護委員等に協力を仰ぎ、イベントで説明をしてもらい、地域文化の継承を図った。コース整備や事前の点検、マップの作成などが円滑に進み、人のあまり通らない山道や細道もルートに入れることができた。美里フットパス協会の会員や県内外から約400人が参加、都市間交流も深まった。
- ▶堂園断層地では地元の有識者による民話を交えたガイドをしてもらった。断層を自分の目で見たいという要望が多いようで、今後も広がりがありそうだ。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶活動を継続していく。赤井、福田の2ヶ所のコースを作成し、イベントも実施していきたい。
- ▶益城町に最低でも5~6ヶ所のフットパスコースをつくり、年に数回イベントを実施することで交流人口増を図りたい。会員が高齢であることもあり、無理せず長く続け、益城町の文化の発展・復興に努めたい。

課題点・反省点

- ▶フットパスイベントを行うにはある程度の資金が必要。これまで参加費は無料だったが、今後は300円前後の参加費を集め、イベント保険等に回す必要がある。
- ▶駐車場の確保ができなかったため、事前に参加人数を把握する必要がある。月例会等の会場の確保も町のサポートを仰ぐ必要がある。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶何はともあれ、挑戦してみることに。



地元農家の野菜の無人販売

熊本地震からの復興を願ってスタートした益城フットパス。15の文化財史跡と集落を巡り歩く中には、断層が見られるポイントもある。県内外から多くの人が参加し、都市間交流につながるケースも



▲フットパス途中の砥川神社での集合写真



◀堂園で地元の人による説明の風景

▼下棟部落で会員による事前の清掃活動



水越地域活性化協議会

水越の誇り「榎永峠の桜並木」整備と公園化。高齢者支援や、伝統行事復活への派生も。

〒861-3211 上益城郡御船町水越2449-4 水越地域活性化協議会 ●電話：096-282-9576 ●代表：古閑和博 ●会員戸数：123戸

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶地域の誇りのひとつでもある「榎永峠」の桜のテングス病を治療するとともに、地域の内外から協力をいただき、美しい景観を取り戻すための「植樹祭」を実施。山梨県の「悠久の里」寄贈の苗木を植樹し、桜の美観を増幅させた。
- ▶「榎永峠」の整備と称し、大木の伐採や道づくり、草切などを実施。戦後、県道と同時にこの峠を整備した地域の先人たちの苦勞を後世へ伝える年表を作成。
- ▶地域の隠れた財産である竹細工や藁細工の名人らの協力を得て工芸教室を実施。伝統を後世へつなぐ契機に。
- ▶榎永峠公園化を目指したことで大工等の専門技術を持つ地域内の協力者も増え、峠や中学校の休憩所、案内看板に加え、地震で崩壊したグランドゴルフ休憩所の整備も完了。
- ▶高齢者、一人暮らしの集いの場や配食の取り組みに派生した。さらに、「どんどや」「もぐら打ち」といった伝統行事を復活させることができた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶里モンプロジェクトで環境が整い、平成30年度より3年間の地域おこし協力隊の配置を受け、これまで取り組めなかった加工品づくりにも挑戦し、新たな地域活性化の方策を構築していきたい。

課題点・反省点

- ▶自然環境保護活動は次の世代への引き継ぎが課題である。一方で、ボランティア頼みの今の形では後継者育成が難しい。
- ▶空き家や放置畑の害獣被害対策など、見逃せない課題が増えてきた。被災で地域外から水越に通う人もいる。復興はまだこれから。里モンプロジェクトを続けて専門家派遣や対策提示、説明会を行いながら継続的に支援し、地域活性と担い手育成をサポートしてほしい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶インターネット販売や、起業化への道筋を模索し、継続的な活動費用の確保ができる仕組みをつくる。
- ▶フェイスブックなどを活用し、情報を発信。関わる人を増やしていく。
- ▶後継者をつくるためにも、組織化したほうがいい。



桜の植樹や竹細工だけでなく、どんどやや注連縄づくり、漬物づくり、集落の祭りなど、ことある毎に集落のつながりを大切にしている



森と暮らしの学校 森林楽(SINRINGAKU)

吉無田高原の森を舞台に、楽しく学ぶ。達人の技や知恵、地域住民との交流も満載。

〒861-3323 上益城郡御船町代8405-375 ●電話：096-285-2426 ●代表：渡邊千恵子 ●会員数：120名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶域外や県外から専門家を招き、森という環境の中で、【森と料理/森と住まい/森とアート/森とカラダ】という4テーマでイベントを実施。吉無田高原周辺の森を歩き、専門家から技や知恵、森との関わりかたを学ぶ機会をつくった。熊本市内や御船町周辺からの参加も多く、吉無田高原を訪れてもらうきっかけになった。
- ▶地元の方々に、講座のお手伝いや講師として来てもらい地域内外の楽しい交流につながった。
- ▶地元の人に、自らが住む地域を楽しむ新たなアプローチを提供できた。
- ▶イベントを通じてこのエリアへの移住を検討する人や、地域団体への加入をした人がいた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶引き続き、森と暮らしをつなぐ場を作り、交流の場を企画していきたい。活動を通じて商品開発などを行い、森と暮らしのプラットフォームを目指したい。
- ▶地域産業(林業)の応援や、周辺の森の環境整備など参加者や住民と相談し、関わりを続けていきたい。
- ▶2019年より地元林業者の新規事業をサポート、ともに新商品開発に取り組んでいる。

課題点・反省点

- ▶講座については周辺エリアの天候を十分に考慮し、開催時期を決めなければいけないと思った。
- ▶高校生以上を対象とした講座だったが、子ども連れで参加したいという声も多く、開催側の受け入れ体制や企画内容なども今後の課題。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶助成事業終了後、どう継続するかを早めにメンバーと相談しておくこと。私たちも暗中模索だが、終了後の活動継続の方向次第で、資金面など現実的にシビアな問題に直面することになるので、気をつけたいところ。



収穫体験や森林の伐採といった森との関わり方を学ぶ回や、森と料理をテーマにした回、野外でヨガをしながら森林の心地よさを体感する回なども

放棄竹林の整備と竹材の活用で内外に交流を。家庭菜園や花植えなど、環境美化にも意欲増。

〒861-3516 上益城郡山都町千滝 75-1 ●電話：0967-72-1550 ●代表：野口慎吾 ●会員数：70名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 地区内にある放棄竹林を伐採・整備。
- ▶ 竹材を活用し、資源化する取り組みとして、「山都町竹資源利活用協議会」のメンバーに協力を仰ぎながら、竹チップや竹粉などをつくって地域内へ配布。
- ▶ 平成30年度にはいり、子どもイベントや地域のまつりで竹を活用する動きが出るなど、地域全体の盛り上がりにつながりつつある。
- ▶ 竹チップや竹粉を配布したことで、竹材の利活用に関心を持つ人や、家庭菜園の手入れ、花植えなどに取り組む人が増え、地区内の環境美化活動の活性化にもつながってきた。

自己評価

- | | | |
|----------|------|---------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶ できるところから地区内の竹山整備をすすめ、竹資源の利活用を進めると共に、家庭菜園は花植えなどの地域行事を推奨し、どんどこや絶やさぬように日頃のコミュニケーションを密にとる。顔の見える関係づくりを続けていく。

課題点・反省点

- ▶ 事業に取り組み、その意義は地域住民へも伝わったようだが、少子高齢化が進む中でいかに公民館活動や住民間の交流を続けていくか、人材の確保の面でも苦慮している。
- ▶ 3年ほど継続して竹林整備に取り組まないと、放棄竹林は元に戻ってしまう。継続できる体制と少額の資金の継続が必要であると感じる。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶ 公民館活動を主体とするグループであるが、地域活動のなかで取り組みたい活動があれば、この事業を活用して新しいことにチャレンジできることから、積極的に活用をすすめたい。
- ▶ まずはできるところからやってみる。多様な方の参加を促すようにすると、新たな展開が生まれる可能性も。



簡易の炭焼き機で伐採した竹を炭にする工程。焼いた炭は土壌に還元していく

休憩中のかまど料理



千滝地区の集落住民約50人が参加し、集落のなかにある放置竹林の伐採と、景観整備を実施。伐採した竹を下ろすのも重労働

被災からの復興。通潤用水と棚田景観復活へ。高校生や商工会など、地域内外への広がりも。

〒861-3665 上益城郡山都町大飼384 山都町棚田復興プロジェクト ●電話：090-7987-0533 ●代表：下田美幹 ●会員数：12名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶ 国の重要文化的景観に選定されている通潤橋から流れる用水と棚田が、地震と豪雨により1000ヶ所以上の被害を受け、災害復旧が遅れていることもあり、農業をやめる人や町を出る人が増え、皆が覇気を失っていくのが感じられた。同時に、高齢化によって用水管理や共同作業の継続も困難となってきており、このままでは通潤橋はただのアートになってしまうと危機感を覚えたのが、活動の動機。地元の方に少しでも元気を取り戻してもらうため、「農業ボランティア」に呼びかけ、年3回の用水路の土砂あげや草切り等の協力をしてもらった。
- ▶ 初年度は棚田の小さな崩れや、土砂で埋まったところを中心に石ころ拾いや、しがら組み、棚田の修理を実施。50人のボランティアが集まる日もあり、交流を通じて地域の人たちが明るくなった。地元の高校や、商工会青年部など地域のなかの関わりも広がってきている。

自己評価

- | | | |
|----------|------|---------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |

今後の展望

- ▶ 地震後に始めたばかりでまだきちんとした形になってはいませんが、全8回の作業に延べ200人以上の人が参加してくれ、地域の内外へも活動が広がってきているので、今後も活動を続けていきたい。
- ▶ 後継者不足でもあるが、高齢化が進む中、イノシシや鹿の獣害で悩む人も多い。都市圏に住む人など関係人口を増やして、活動を応援してくれる人を増やしたい。

課題点・反省点

- ▶ 仕事の傍らで農業ボランティアをしながら、報告書などの事務書類をつくったり、領収書の整理などをするのがとても大変。
- ▶ 里モンの補助金が、「事務費」として年間3万円程度でも計上できる形にしてもらえれば、事務手続きを人にもお願いしやすく、いろいろなことがスムーズになるのにも思う。(物品購入だけではなく、人件費も必要に応じて計上したい)



熊本地震で崩落した棚田の法面や、土砂で埋まった用水路など、住民らで整備。年に数回の土砂上げや草刈りには、地元の学生たちも参加する

里山保全の間伐材を、薪として利活用。 ピザ窯を導入し、ボランティアの楽しみも向上。

〒861-0803 玉名郡南関町関町 1371 ●電話：090-9656-7387 ●代表：稗島寛浩 ●会員数：32名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶里山保全活動で場際した杉や桜をあらかじめ40cmほどにカットすることで運搬しやすくなり、これまで山中に放置していたものを早めに運び出せるようになった。乾燥を終えたところで、次年度から販売できるよう計画している。間伐や倒木を薪として活用することで、山も道もきれいになる。
- ▶薪の活用法として、ピザ窯を手作りし、みんなでピザや食事を作って食べるイベントを開催。小さな子どもたちにも「木＝燃料」というイメージを持ってもらえたのではないと思う。ピザ窯があることで、参加者の楽しみが増え、結果的にボランティア参加数も増加した。
- ▶里山の資源を生かす取り組みとして、近隣の市町村からも視察・見学の申し込みがある。
- ▶直売所で薪を販売しはじめたところ、地域の別グループも薪販売について検討を始めた。

自己評価

- 物理的成果・売上** ★★★★★ 非常に大きな成果あり
交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

▶里山の保全振興に楽しく取り組み続けたい。里山＝人がつくってきたものなので、たくさんの方が参加し、経験できる取り組みをこれからも考えたい。世界的にエコや環境、ESD、SDGsなど持続可能な取り組みを考える時代になりました。江戸時代の日本ではないですが、目の前にあるものをどう生かし、どう生活していくかを楽しく考え、先進国日本の小さな出発点として動きたい。

課題点・反省点

- ▶自分たちの団体の大きな問題は、小さな子ども～高齢者と参加者の世代が幅広く、イベント時間の配分が予定よりも長くなることが多いこと。小さな子どもたちとの接し方を考えなければならない。
- ▶スタッフの育成、マニュアルの制作などをすることで、スムーズな作業・体験ができるようにしたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶「考える前に行動から」団体での活動は特にひとりではできない。たくさんの方が関わり、いろんな意見が出てくるので、そこを大切に。
- ▶100のやり方があれば、100通りの結果がある。未来へ受け継ぐためにはまず自分たちから行動し、たくさん失敗しながら経験を重ねてください。



薪を活用するためにレンガを積み上げて、ピザ窯づくり



薪火で温められた窯でピザ焼き



竹の火吹き棒で火を起こす



薪にする丸太



薪窯ピザ焼き体験は人気イベントに



楽しみながらトッピング



灰もかきだしやすい構造に



薪の準備も万端!

地域の歴史や伝統的な暮らしの知恵を継承。 子どもやシニア向けの講座できっかけ作り。

〒865-0052 玉名市松木中央通り 22-1 阿波屋ビル 2F ●電話：0968-73-5298 ●代表：福富公子 ●会員数：40名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶文化とコミュニティの創造をテーマに、年間を通して学習機会創出のトライアルをし、菊池川で小中学生のカヌー体験や、ホテルの寝床づくり等の体験会を行った。
- ▶和水町の「肥後民家村」で、地域の歴史や農漁村の伝統的な暮らしを学ぶ機会をつくった。薪割りや竹馬、凧揚げといった昔遊びの体験会を行ったほか、玉名や菊池川の河川にかつて、加藤清正が植樹したと伝えられる「ハゼの実」で和ろうそくをつくる体験会を開催。小学生～高校生までを対象とし、作っろうそくにはそれぞれ絵を描いて自宅へ持ち帰ってもらった。
- ▶未来を担う子どもたちに、ふるさとの魅力を知って欲しいとイベントを開催していたが、学校行事や家庭の都合などで小中学生の参加者を集めるのが大変だった。若い会員の減少により、昨年以來、小中学生への取り組みは休止中。公民館講座での着装教室、駅舎を花で彩る活動や、着付け、踊り教室など、シニアや大人向けの文化継承に取り組んでいる。

自己評価

- 物理的成果・売上** ★ 成果があったとは言えない
交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

▶次世代を担う子どもたちと、高齢者が、楽しみながら学び合う場所や機会を提供していきたい。そうすることで、子どもたちに文化伝統を継承できるだけでなく、高齢者の元気づくりにもつなげたい。

課題点・反省点

▶子どもは地域や日本の未来を担う大切な宝物。孫たちを含め、子どもたちに対し、今の親世代ができないことをおじいちゃんおばあちゃん目線でケアしてあげたいとはじめた取り組みだったが、民間だけで参加者を集めるのは大変で、方針を変えざるを得なかった。今後も諦めず、地道に子どもたちへの働きかけも行っていきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶活動を続けることは大変ですが、まずはできることをひとつずつ、挑戦してみてください。



中高生向けの水と農業の歴史を学ぶイベントも 専用の衣装に身を包み、本格的に武芸や農村の体験を行った



竹を割り、竹馬づくりに挑戦



自分たちが暮らす地域の営みを学ぶ機会にも



野良着で行う活動は新聞でも話題に



小田地区
金栗四三 PR 推進部会

大河ドラマ「いだてん」に奮起した玉名の人々。
ブーム後を見据えた、遊歩道建設と受け皿整備。

〒865-0018 玉名市下小田 919 番地 ●電話：0968-73-3057 ●代表：船津和利 ●会員数：41 名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶NHK大河ドラマに郷土出身の金栗四三氏を取り上げられると発表になり、これはめったにない機会であろうと、小田地区の名を全国に広めるためにPR推進部会を設立。
- ▶全国からの来訪者に対してどのようなおもてなしが必要になるのか、また、地域活性化に向けた収益構造をどのように作り上げていくのか、区長たちと協議していった。
- ▶一方、やがてブームも下火になるだろう。その時のために、地元の人々が活用できるよう残せるものが必要と考え、15年ほど前にまちづくり委員会でやろうとしてできなかった「遊歩道の整備」に取り組むこととした。
- ▶里モンプロジェクトの採択を受け、遊歩道整備に取り掛かったものの、重機を導入する大工事へ。採択を受けたゆえに始まり、住民の協力でようやく完成できた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★ 成果があったとは言えない
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

成果・今後の展望

- ▶近隣の住民から「お前ら、よくやった」と言われ、また、県外からの来訪者からも「来てよかった」と言われる。そのことが、やってよかったと思えること。
- ▶遊歩道整備はこれからもつづけ、長く使えるものへと発展させていきたい。

課題点・反省点

- ▶結果的に完成し、喜ばれたが、やはり計画は無謀なものだったと思う。もっと現実的な計画を立案すべきだった。但し、それゆえに、住民の協力者が増えていき、よりよい遊歩道になったのは間違いないのだが。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶俺がするぞ！という人がいて、その人が一生懸命になり、あとはその人についていく形でみんなで盛り上げていけばいいと思う。最後までみんなで協力して、ひとつになっていくといいと思います。



里モンプロジェクトを活用して整備された遊歩道。地面には伐採された竹のチップが敷かれている



左:部会長の船津氏、右:事務局担当の関氏



金栗四三ブームに湧く玉名市小田地区 ウォークラリーの開催、金栗氏住居の公開、NHK「いだてん」大河ドラマ館のオープンと、多くの来訪者を集めている



たまな稲(いいね)！
田んぼアートプロジェクト実行委員会

玉名の魅力と話題をつくる「田んぼアート」
地元の若手や、各実行委員会との連携で自立も。

〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光ホールディングス(株) ●電話：0968-76-2161 ●代表：山田浩之 ●会員数：16名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶JR新玉名駅北側にあるおよそ60アールの水田に、色や背丈の異なる稲を植え、「田んぼアート」を作ることで玉名地域の魅力と話題の創出につなげている。
- ▶「田植え会」「稲刈り会」「案山子コンテスト」等を含めて行うことで、地域の多くの方が参加。「農と食の学習の場」を提供することにつながっている。
- ▶「田んぼアート」の原画作成と測量は北稜高校を中心に行っていたが、事業継続する中で平成30年度からは同校OBや青年農業者クラブ等も参加。「田植え会」の準備も含め、地域に根づいた活動になってきている。
- ▶「大俵まつり実行委員会」に大俵まつり参加者への景品として「田んぼアート」で収穫した米を買い上げてもらい運営資金確保につなげ、平成30年度は自主運営に。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶地域の関係機関と連携しながら、実行委員会の運営機能を強化し、経済的に自立した持続可能な運営を目指していきたい。
- ▶「たまな稲(いいね)！田んぼアート」プロジェクトをより地域に根付いた活動へと進化させるとともに、広報活動を強化し地域への広がりを加速させたい。

課題点・反省点

- ▶事業実施には今後も安定した資金調達が課題
- ▶田んぼアートデザインの高度化
- ▶田んぼアートで栽培したお米や有色米を加工した商品化

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶活動を継続するためには資金が必要となるため、さまざまな機関等と連携していくことが必要。



色や背丈の異なる稲を植えることで浮かび上がる、田んぼアート。九州新幹線の玄関口でもあり、もてなしの風景に



北稜高校の在校生やOB、青年農業者クラブなど様々な人が参加



月瀬興しプロジェクト HATM

散策路の整備や草刈りなどで美しい里山を創造し、
地域の中にある名勝や文化遺産を継承。

〒865-0003 玉名市溝上 67 ●電話：0968-72-4493 ●代表：高木幹夫 ●会員数：500名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 梵字群をはじめとする、地域の中にある名勝や文化遺産を継承しようと、自治会や公民館、老人会などの地域団体グループでプロジェクトを結成した。第一次の取り組みとして、ハード面の整備に注力。箱谷地区、青木地区、溝上地区の区民がともに作業を行うことで、地区を越えた地域間のコミュニティが広がっていった。
- ▶ 「城の原井戸」は、度重なる豪雨で、見学・散策道が崩落し、ルート変更等を含め再検討が必要だと判明。
- ▶ 「箱谷金毘羅さん」に桜や紅葉、ツツジを植栽し、定期的な下草刈りを行っている。
- ▶ 「青木梵字群」はお宮さん清掃と合わせて定期的に点検・整備を行っている。
- ▶ 「英彦山」は山道のコンクリート舗装を行い、離合場所や駐車場を整備。桜と紅葉の植栽をし、定期的な下草刈りを行っている。
- ▶ 他地域の行事ごとにも協力体制が生まれた。
- ▶ プロジェクトの盛り上がりの結果、「HATM音頭」の「歌と踊り」ができて、機会ある毎に賑わっている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり



見晴らしを取り戻した頂上からの眺め



頂上付近の景観を阻害している樹木を伐採していく



重機をつかって登山道の整備



区民総出で桜・紅葉・ツツジの植栽



月瀬HATM音頭の歌と踊りで賑わう

今後の展望

- ▶ 金比羅山山道の整備を行い、村道の脇に野いちごや山菜などを植えて、散策の楽しみを増やしていきたい。
- ▶ 熊本県北部の中心であることを見すえて、取り組みを続けたい。月瀬は江田船山古墳の対岸に位置し、古墳や文化遺産が未調査のまま存在している。行政と連携し、学識者を含めた調査なども視野に入れたい。

課題点・反省点

- ▶ 造り上げたハードを維持管理していきたい。そのためには人手や費用等の資金確保についても考える必要がある。
- ▶ 目的変更を要する場合の計画や予算について、調達策に苦慮している。県からの支援をいただきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 区民、住民全員が力を合わせ、コミュニティを形成することが必要です。まずは小さいことでもみんなで取り組み、実践することが大切だと思います。

特定非営利活動法人あめのゆみ Rainbow project 九州

神社の竹林整備と、定住支援も視野に入れた
里山と都市生活者をつなぐ拠点づくり。

〒861-5405 玉名市天水町野部田 745 ●電話：080-9562-1087 ●代表：宮部和雄 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 活動地区にある「野部田山神社」境内の孟宗竹林が荒廃していることから、地域おこしの端緒としてこの整備を始めた。当初は立ち入るのとはばかられる雰囲気だったが、少しずつ作業を継続し、枯竹の大部分を撤去。陽光も入り、スッキリとなったところに地域住民の理解や協力も得られた。おかげさまでこの年の例祭は例年以上に多くの参拝客が訪れた。
- ▶ 間伐した孟宗竹は、竹炭窯を制作して竹炭にし、「山の神」の竹炭として6次産業化する計画だった。試し焼の竹炭は例祭の参拝客に配布したものの、直後に熊本地震で窯が被災し、この計画は頓挫した。また、間伐のための継続的な人材確保が難しく、当初行っていた課題解決のための情報発信も滞ってしまった。
- ▶ 一方、野部田山神社そのものへの関心を掘り起こすために、「山の神」にまつわる伝承を冊子化し、地域住民や参拝客に配布してとても喜ばれた。なお、この冊子は熊本地震後に「くまもと再伝説プロジェクト」として阿蘇神社など他の伝説もまとめた冊子に発展した。
- ▶ 同時期に高瀬商店街に古民家を改装したコミュニティサロン「ダンギドコロ」を開設し、拠点として地域の取り組みを伝える展示やサロン活動を実施したが、地震後に閉鎖。現在は災害福祉活動として出張型サロンに転換。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 交流・雇用・定住 ★★ 成果はあったが小さかった
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり



孟宗竹林の整備を継続的に行うにあたり、間伐した竹をその都度、竹炭に



炭焼き窯の製作風景



地面を掘ってしつらえた炭焼き窯

今後の展望

- ▶ 地道な竹林整備活動を維持するとともに、イラスト入りで編纂した「山の神」伝説を野部田山神社の境内に掲示して子どもたちの関心を高め、未来のモチベーションを育みたい。
- ▶ 拠点のサロンは震災を契機に閉鎖し、出張型サロンに転換。益城町を中心に仮設団地や公民館へ月2~3回出張し、地元のボランティアと共に、プロジェクトを用いた「名作シネマ茶話会」を継続中。今後も災害復興住宅等でのサロン活動として展開を予定。

課題点・反省点

- ▶ 整備が進むにつれ協力者が減ってしまった。ボランティアの確保と、組織として活動を続けるためのモチベーションをどう維持していくのが課題。
- ▶ 地域住民への呼びかけが不十分だった。一方で、現実的には人を無償で動かしていくことは難しい。
- ▶ 地域で拠点をつくるには地道に信頼関係を築く必要があるが、地域行事や寄り合いに参加できなかった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ いかなる活動でもボランティアで組織するためには、モチベーションの維持が必須です。
- ▶ 何をするにしても、地域との信頼関係の構築が最優先。



コミュニティサロン「ダンギドコロ」



「名作シネマ茶話会」の様子

なごみの郷高野地域づくり協議会

休耕田を活用し、ソバと大豆を栽培。
大豆商品で、事業化と定住への道を拓く。

〒865-0122 玉名郡和水町高野1351-2 ●電話：090-2517-0402 ●代表：米川博子（担当） ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶ 空き家を活用した都市農村交流プロジェクトとして、古民家カフェを拠点に、大豆を使ったコーヒーの商品化を試み、事業化した。「Nagomi 大豆Coffe」という名前で2017年7月より販売を開始。協議会の貴重な収入源になると同時に、地域の魅力発信にもつながっている。さらに、熊本県物産振興協会が主催する平成30年度優良新商品表彰事業で、食品部門の優良新商品賞を受賞した。
- ▶ 休耕地を活用し、ソバと大豆を栽培。栽培体験や味噌づくり体験で地域の魅力を再確認してもらった。
- ▶ 大豆コーヒーの事業化にあたり、地域おこし協力隊が参加。協力隊の任期終了後も、和水町内に定住を希望している。また、こうした活動を通じて地域住民も多方面で学ぶ機会が増えた。
- ▶ 商品化によって町内の小売店や企業に活動を認知してもらうことができ、団体を越えた連携も広がりつつある。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ 販路開拓
- ▶ 事業拡大(ふるさと納税返礼品)

課題点・反省点

- ▶ 活動を詰め込みすぎた時期があり、参加者が減ってしまった。人材不足にもなっているため、地域住民をいかに巻き込んでいくかが今後の課題。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 計画を決めて欲張らない。できるしこ、でいい。
- ▶ 助成制度ありきでは継続は難しい。助成制度を使う目的を明確にし、どう使い、いかにそこから独立できるかよく考える。



(写真左上) 個包装のパッケージで展開することで、町内の飲食店やカフェなどで提供されるケースも増えた

(写真そのほか) 休耕地を耕して大豆を植え付け。収穫した大豆を焙煎し、健康志向の人に人気の大豆コーヒーに



二俣の杜

地域の特産でもあるみかんと廃材を活用。
廃材でつくる雑貨の体験会や、商品開発も。

〒869-0311 玉名郡玉東町二俣2125 ●電話：0968-85-6147 ●事務局：清田誠一 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶ 地域の特産品であるみかんの廃材を活用し、新たな商品開発を行うための研究・調査、体験会などを行った。
- ▶ みかんの木を使った雑貨づくりの体験会を実施。地域の子もたちにまちの特産品に親しみを持ってもらい、廃材でもアイデア次第でいろいろな楽しみ方があることを体験してもらうことができた。
- ▶ 定年退職した人や、主婦の人たちを中心に活動をしており、おのおのやりがいを感じている。廃材を活用するという意味で、環境にも優しい取り組みでもあるという意味でモチベーションがあがるきっかけになった。
- ▶ 発展として、地域で作られるさまざまな野菜の収穫体験や、昔の農機具を使った体験などを実施。子どもたちの興味関心を高めている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ きちんと成分調査や品質検査を行い、製品を販売できるようにしたい。

課題点・反省点

- ▶ 手作りで試行錯誤をしているなかで、水分量や配合、乾燥時間などに微妙な差が生まれ、カビが発生したものもあった。有識者のアドバイスを仰いだり、品質検査などをしっかりとしながら製法を見直し、商品化を目指していきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ みんなが楽しみながら、地域を盛り上げていってほしい。



みかんの廃材を使った、スモークウッドは、素材の味を更に美味しく食べられると好評。体験会も行った



みかんの木を使ったクラフトワークショップも開催



山鹿フットパスで里山の魅力をPR。 菊池川流域三市一町の連携・交流で化学変化も。

〒861-0404 山鹿市菊鹿町上永野1441 NPO法人山鹿もてなしたい ●電話：090-8947-4950 ●理事：山本博 ●会員数：120名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

▶「ふるさと山鹿を考え、よくすること」を目的とし、活動を展開。その手段のひとつとして「フットパス」を導入し、「菊池川流域日本遺産」をテーマに三市一町の連携によるフットパスコース作成と活性化に取り組んだ。菊池川を背骨とし、河口から水源までを制覇するコースの作成に加え、その両岸一帯に広がる玉名市・和水町・山鹿市・菊池市のフットパスコースを共に展開する形で、日本遺産のストーリーを肌で感じるコンテンツに。

▶「おもてなし子ども公演」「さくら湯朝市」「ボランティアガイド(子ども観光ボランティア養成講座も開催)」「ふるさと自慢子ども祭り」「子ども天国」「四高会議」「山鹿つたえたい」「ふれあい農園」「歌声喫茶in八千代座」など三市一町の人たちが連携することで、さまざまな発展を遂げ、長期的な取り組みになりつつある。

▶地元を歩く中で地域の自然、人との出会いの中で足元の魅力を知り、ふるさとを見直すきっかけとなった。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶少子化が進む中、地域の「継続する仕組みづくり」を考え、活動を続けていきたい。

課題点・反省点

▶今回の助成について、短期的な成果を期待していたため、その面では思ったほどの成果は得られなかった。だが一方で、予想もしていなかった長期的な成果が得られ、驚きながらもホッとしている。「ふるさと山鹿を考え、よくする」活動であれば、何らかの成果が出ることを実感した。こうした反省も含め、今後申請をするときは、長期的な視野で考え、活動を充実させたいと思う。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶多くの市民と行政と連携することは大切。
 ▶何のためにやるのか、目的がぶれないように。
 <例>日本遺産に認定され三市一町の市民・団体・行政が幅広く連携し、活動を続けてきた。各行政区で行われていた市民活動とは違う交流から化学変化が生まれた。



▲菊池川流域など、この地域の魅力に触れるフットパスコースをつくり、活性化を試みる



▲おもてなし子ども公演として、毎月第2・第4日曜日に上演。観光客の目を楽しませた
 ▲果樹園の放棄地対策として「ふれあい農園」と題した梨オーナー制を実施



鹿北地域を活性化したい12の団体が結集！ 新商品の開発や販売、情報発信への取り組み。

〒861-0601 山鹿市鹿北町四丁1612 ●電話：0968-32-3111 ●会員数：12名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶鹿北地域を活性化しようと活動を続ける12の団体を結集し、新たな組織を形成。鹿北の活性とPRを変わらぬ目的として掲げることで、継続的な活動に。

▶人が訪れるきっかけをつくるため、パンフレットや情報冊子だけでなく、鹿北を名実ともにPRできる商品開発に挑戦。特産であるお茶に着目し、「かほくのほっ」というネーミングで、さまざまな生産者のお茶を楽しめる商品を制作。メディアにも取り上げられ、販売実績を上げたり、イベントも定員を達成するなどの成果を上げた。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶このまま無理をしない程度の活動を続けていくだけでなく、なにか起爆剤となるような活動も織り交ぜたい。そうすることで、次のリーダーを育てたい。

▶鹿北地域の歴史的な背景にも目を向けた活動を、検討していきたい。

課題点・反省点

▶リーダー育成が目下の課題。地域づくりにおいてのリーダーは、ややもすると「バカモノ」的に地域で浮く場合もあるため、リーダーのなり手がでない雰囲気もある。そうした雰囲気を払拭することが急務。

▶平成30年度にニーズもなくなり、販売を終了した。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶地域を対外的にアピールする前に、活動する人たちが自身が地域のことをよく知ることが大切だと思う。



鹿北地域の緑茶や紅茶、コーヒーを、「かほくのほっ」として企画商品に



新商品企画として発表の場を設け、メディア等で話題になりやすくする工夫も



試飲会を実施



急須がなくても手軽に味わえるティーバックタイプ



色や風味をしっかりと体感してもらい、ファンの拡大へ

タケノコと栗を使った、季節の食イベント。
毎年の継続で集客増。今後は土産開発も。

〒861-0605 山鹿市鹿北町多久678 ●電話：0968-32-3111 ●代表：中満育代 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶鹿北を代表する特産物、タケノコを用いた地域活性化活動として平成19年から「たけんこ街道」をスタート。同街道が春のイベントであるため、秋の風物詩を作ろうと里モンを活用して「いも、くり自慢街道」を実施した。
▶界隈の飲食店とともに、一番おいしい時期のタケノコと、芋と栗を使った店内飲食用のメニューと、店頭販売用の商品を開発。「たけんこ街道」の活動は、平成29年度で10年目を向かえており、ちょうどマンネリ化し始めた時期でもあったので、この事業が活用できたことが起爆剤となった。春と秋の名物として注目され、春は約3000人、秋は約2500人が町内外から訪れるようになり、地域住民のやる気とアイデアが再びあふれ始めた。
▶平成30年に事務局をしていた商工会が退いたが、このタイミングで、自分たちでやろうという意欲を持てる人材が育っていたことは大きな成果だと考えている。

今後の展望

▶この街道を継続し、鹿北を代表するタケノコと栗を全国区にしたい。そのためには、タケノコや栗の土産品の開発にも力を注ぎ、タケノコと栗をテーマにしたさまざまな仕掛けをしていきたい。
▶会員数は減ってきているが、形は変えながらも、生産者の気持ちを取り入れて、無理のない活動を行っていききたいと思っている。

課題点・反省点

▶鹿北産のタケノコと栗を全国区にするためにはどうしたらいいのか？事務局の組織体制なども含めて、検討していきたいと思う。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住 ★★★★★ 組んだだけの成果あり
元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

これから活動を始め方々へのアドバイス

▶目標がずれなければ、長く続くと思う。



鹿北の飲食店とタッグを組み、春はタケノコ、秋は芋や栗を使った特別メニューを展開恒例イベントとすることで、次第にリピーターが続出するように

岳間の文化や自然をPRしたい！
大学生の力を借りて冊子を発行。商品開発も。

〒861-0605 山鹿市鹿北町多久1261 ●電話：0968-32-3200 ●代表：本田隆一 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

▶岳間の文化や自然を掘り起こし、PRするために冊子「たけまあそび」を発行。編集過程で熊本県立大学の学生らが協力してくれたことで、新しい視点で地域を捉えることができ、さらに地域が元気になっていくのを実感できた。
▶「たけまあそび」にも掲載したことで、配布直後から「冊子を見てきた」という来町者が増えた。
▶大学生は冊子の編集で関わってくれただけでなく、その後のインターンシップの試行にも協力してくれた。外の人を受け入れる人材や雰囲気を持ったことは大きな成果だと感じている。
▶冊子が新聞に取り上げられたことで、住民が地域を見直すきっかけになった。
▶岳間の野菜や岳間をPRする商品開発に取り組み、トマトジャムやブルーベリージャム、たけまあせちなどが完成した。

今後の展望

▶商品開発したものが産業となり、活動資金が生まれると、冊子の第2弾の発行や新しい商品開発も可能になっていくと思う。
▶岳間に住んで良かった！と実感できる活動を、これからもこの土地で続けていきたい。

課題点・反省点

▶活動が一過性のものにならないようにしなければならない。
▶冊子を発行はしたものの、在庫がなくなった場合はどうするのか？商品の販路拡大をどうするか？

これから活動を始め方々へのアドバイス

▶話し合いでは、何のために活動するか(目的)をきちんとすべき。
▶好きなことだけしていればいいというものではなく、協働の精神が大事。
▶地域を好きになること、好きでいることは必須。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり



岳間の自然や文化を「あそび」として提案するミニ冊子を発行

自然の豊かさや、ここに暮らす人々の営みに着目した誌面



大学生と一緒に、冊子「たけまあそび」を制作

ゆずのマーマレードづくり

手がけた加工品を使い、おせちづくり

「美味しい米づくり」PRのためのイベント開催。素晴らしい庄の農地を荒らすことなく、子孫へ。

〒861-0301 山鹿市鹿本町庄 809 ●電話：0968-46-3455 ●代表：野中隆弘 ●会員数：38名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶「庄」地区は豊かな土地と水に恵まれており、地域活性化にあたっては「主食用の米にこだわり、美味しいお米を栽培する」ことをテーマとしている。
- ▶「ブランド米(特別栽培米、化学肥料、化学農薬をほとんど使用しない)」確立のため、また皆様にご存知いただくPRのためにイベントを開催している。
- ▶4月の最終土日で「春の花祭り」を開催、2日間で700~800名の来場者があり、昼食(500円弁当)も2日間で約500名の客。田んぼ一面に真っ赤なストロベリーキャンドルが咲きほこり自由に田んぼに入り、花を摘むことが出来る。食事のみ目的で来場される方も年々増加、少し安いのではと5年を経過し、やり方を考えている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

成果・今後の展望

- ▶県の「里モンプロジェクト」と山鹿市の「やまがの力」事業。これらの事業のおかげで今日の「庄の夢」があります。
- ▶地域や米への認知が高まり、定期的な購入者が増加。
- ▶海外への米の販売も現在進行中。
- ▶「庄の農地」を荒らさず、子孫に受け継いでいきたい。

課題点・反省点

- ▶5年経過して私たちも5歳年をとりました。後継者育成が急務ですが管内に人材がいません。雇用も検討する必要があります。
- ▶今後10年~15年の活動継続は無理。現在、イベントの短縮化や内容変更なども検討中。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶会員が同じ目標、目的をもっている事。
- ▶ボランティア(無償)では続きません。
- ▶庄の夢には女性の加工グループがあります。加工グループの協力なしには出来ませんでした。



米づくりPRのため、イベントを開催 自信のブランド米「庄の夢」



稲刈りは初めてという子どもたちも多い。農作業や自然とのふれあいを楽しんだ



庄地区の恵まれた自然と豊かな農業を熱く語る、野中代表

地元産品活用の商品開発と農村文化の伝承。海外からのツアーも増え、交流の輪は広がる。

〒869-0216 菊池市旭志伊坂335 ●電話：0968-37-2054 ●代表：上田スズ子 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶5月~11月は、夏野菜のシシトウを植えて収穫し、活動資金に。体験ツアーの受け入れ人数としては決して多くはないものの、他県や海外からのゲスト、モニターツアー等の体験受け入れを実施。みんなで集まり、季節の野菜をふんだんにつかった料理を楽しく作り、もてなしている。
- ▶里モンプロジェクトの新たな出会いに刺激を受けた。
- ▶12月~3月は、もち米であられや餅を作って販売。地元のコマツナやキクイモ、ヤーコン、人参などを練り込んだ「健康あられ」が道の駅で飛ぶように売れる。
- ▶採れすぎたシシトウを甘酒こうじで煮た商品や、冬のネギ味噌づくりなどにも取り組んでいる。
- ▶地域の伝承料理を掲げ、海外からのモニターツアーにも対応。言葉はわからなくてもハートで対応すると笑いの絶えない場に。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶移住定住できた人たちにも、集まりがあるときに都度呼びかけて来てもらっている。今後もそうした声かけを続けたい。
- ▶今後もユーモアを持って楽しみながら新たな商品開発をつづけ、高齢社医療費の削減に努めていきたい。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶グループ相互の親睦が大切。
- ▶野菜やそれぞれの料理の仕方、ポイントなどを伝えることで広がるものもある。
- ▶伝承料理や、田舎ならではのまわりにあるものを使っているアイデア商品に価値がある。



▲餅を使って作るあられに、キクイモやホウレンソウ、コマツナ、人参、アジタバといった栄養価の高い野菜を練り込んだ。「健康あられ」というネーミングで売れ行きも上々!

国内外の子ども~大人まであらゆる世代の人が地域を体験に訪れる



熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

千畳河原の清掃活動や食育への取り組み。地域の農家や外部との連携で、雇用を目指す。

〒861-1682 菊池市重味1515 農園カフェうぶとも ●電話：090-5941-4965 ●代表：上野智美 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶「食育」や「文化の伝承」を行うことを目的に立ち上げたプロジェクト。同じ志を持つ仲間たちと協力し合い、イベントを展開した。気軽に集えるコミュニティ広場として開く「農園カフェうぶとも」をベースに、農園や地域の野菜を使った飲食の提供と販売、「千畳河原清掃活動」や「食育イベント」などのイベントを開催している。
- ▶里モンを活用することで広告関係を作成でき、イベントの告知はもとより、この取り組みの骨子や地域の食や文化について、「目で見て伝わる」資料を作ることができ、多くの人たちに理解してもらう機会が増えた。
- ▶里モンを通じてつながった団体もあり、地元菊池の方とイベントでコラボするなど、活動も広がり始めた。

自己評価

- | | | |
|----------|-------|--------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの効果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの効果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★★ | 非常に大きな成果あり |

今後の展望

- ▶今話をもらっている契約栽培の作物を安定的な収入のひとつにし、農業で雇用を生みたい。
- ▶カフェの営業期間を夏のみから、春～秋へ広げ、人と人がつながり、お金を生む場になりたい。
- ▶オーガニック製品の認知を高め、人と自然の共生環境づくりに努めたい。各種イベントに力を入れたい。

課題点・反省点

- ▶特にスタッフへの日当など金銭的な面を充実させられる仕組みを作り、自分たちでお金を儲けて、プロジェクトの運営や関わってくれた人にしっかり対価を払える活動に育てていきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶里モンプロジェクトは内容も難しすぎず、負担も少なく、ありがたいプロジェクト。新たなことを始めようと夢や目標を持つ人、地域や日本のためになることを始めているが資金が壁になって前へ進めない人などにおすすめ。県や市の職員も親切に対応してくれるので相談してほしい。



農園カフェ「うぶとも」



芋掘りイベントの実施



里モンプロジェクトで建てた看板(左)と実施した植樹(右)



千畳河原での草刈・清掃活動

ひまわりから、高オレイン酸の健康オイルを商品化。高齢者や障がいのある方にも対応できる農業を!!

〒8611103 合志市野々島4493-210 ワイズコテージ202 ●電話：090-7048-7140 ●代表：戸田祐子 ●会員数：5名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶高齢者や女性でも、比較的短期間で栽培しやすい「花」の育成を休耕地で取り組む。観賞用ではなく「花」そのものを「食べる花」「ホビー加工用の花」などの収益性重視で模索し、多種にチャレンジする。その中で「食用に加工」という新しい6次化物の展開として、最後に絞ったのが「オレイン酸種子を多く含むひまわり」の栽培であった。
- ▶ひまわりは3か月という短い期間で収穫ができ、育成も簡単である。種子からは20%~30%の抽出率で、抗酸化作用に優れた健康オイルを取ることができた。雑草予防にもなり、緑肥としても効果がある。休耕地の転用や裏作として、興味を持ってくださる方が徐々に増えて来たので「地域産物」として商品化を進める。
- ▶2019年度からは栽培地も増え、試験販売も本格化して、県外への販売ルートも開け、採算の見込みが望めるようになった。

自己評価

- | | | |
|----------|-------|---------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★★ | 非常に大きな成果あり |

今後の展望

- ▶多業種や異分野の人たちが集まり、ネットワークで繋がることが「稼ぐ」仕組みづくりになると、わかってきた。
- ▶障がい者の方たちや高齢者など、活躍できる働き場を作り、しっかりとした業態を作り上げたい。
- ▶健康に役立つ次世代オイルとして、販路を確立し、生産者に還元していく。

課題点・反省点

- ▶補助金はきっかけであり、土台に過ぎない「どうせ続かない」という気持ちや人任せでは、軌道に乗せることは困難。失敗や思惑と違うことも多々あり、最後には「やる気と同じレベルで共有できる仲間」が、カギとなった。
- ▶後は1次生産から、6次化生産までを一貫して、製造販売の(外注に頼らない)仕組みを確立できるかが、展望を左右する。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶現状だけを見るのではなく、10年後20年後を予測するような「新しい挑戦」を始めて欲しい。人と人のつながりと「やる気」が集まれば、必ず、何かが「生まれる」



ひまわりの生産者グループ



見た目の華やかさだけでなく、6次製品の可能性も広がるひまわり



店頭での試食・販売会を重ねながら、本格的な商品化のためのヒントを探る



オイルとしての質をしっかり伝えるツールも制作

ガイドブックやミュージアムカフェで 大津町の伝統菓子「銅銭糖」の人気を復活！

〒862-8502 熊本市東区月出 3-1-100 ●電話：096-321-6687 ●代表：生田健誠 ●会員数：3名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶「銅銭糖」は160年以上の間、受け継がれる伝統的な大津町の郷土菓子だが、今では手がける店も3店舗だけになり、認知度も低下している。
- ▶大津町内外へ銅銭糖を広くPRするため、ガイドブックを作成。銅銭糖の歴史を織り込んだガイドブックの配布をはじめたところ需要が高く、増刷し、4,000部を配布した。地域の図書館や歴史館、カフェなどでも取り上げられたほか、小学校の図書館にも置かれ、子どもたちの来店も増えた。
- ▶大津町の関係者の協力を得ながら、銅銭糖を使ったスイーツのメニュー開発と器、展示用のパネルなどを作成。「熊本伝統工芸館」で「銅銭糖ミュージアムカフェ」を開催した。6日間で1000人以上の来店があり、メディアにも取り上げられるなど宣伝効果があった。
- ▶販売店が誇りに感じてくれ、町内でも郷土菓子として見直されるなど、銅銭糖を見直す機運が高まった。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶チーム内に銅銭糖を手がける老舗の娘さんがいる。これからも何かしらで関わりながら、熊本の郷土菓子の一つとして活性化につなげていきたい。

課題点・反省点

- ▶予算面で変更が多く、実績書の変更もあった。内容をよりイメージして企画する必要があると感じた。
- ▶当初はガイドブックやカフェにこだわりすぎて、本当の課題を見失っていた。なぜこの取り組みを始めたか、課題はなんなのかを明確にすることで、イベントや冊子は手段に過ぎないことに気づくことができた。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶活動を行う上で時間がなくなるとどうしても、イベントやチラシなどの手段にばかり目がいきがちなので、事業の目的を見失わないように注意が必要。



熊本市立大学丸山ゼミチーム DOSENTO が主催した「銅銭糖ミュージアムカフェ」の様子。壁面にはパネル展示も



アイスやフルーツを添えた銅銭糖プレート



店頭でも銅銭糖のガイドブックを配布



6日間で1,000人以上の来店



対面で銅銭糖の魅力を伝えられた



パッケージなどに創意工夫を重ねている店も

世代性別問わず参加可能なワークショップ 竹灯籠をきっかけに、地域内外の輪が広がる。

〒8611102 合志市須屋2696-703 プロジェクト合志 ●電話：096-242-4130 ●代表：緒方幸裕 ●会員数：名20

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶活動地域に育成する竹を「竹灯籠」という形に変え、それを作るワークショップをベースにして、地域住民の方々と交流の機会を設けている。特に、親子で参加でき、大人も子どもも楽しめることが最大の目的。里モンプロジェクトに採択してもらえたおかげで、竹灯籠ワークショップに必要な工具類を入手することができ、参加者への負担を減らすことができた。これにより、気軽に参加できるようになり、参加者が増えた。
- ▶この活動を実施することで、今まで竹灯籠や地域活動に興味がなかった人、あるいは興味はあったけど行動の機会がなかった人たちにひとつのきっかけとなればという気持ちで活動を継続している。
- ▶想像以上に多くの参加があり、また、他地域からの協力依頼が届いたり、自治会や学校関係の方々にも協力をいただけた。年齢や男女を問わず参加できる活動となっている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★ 成果はあったが、成功は微妙
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶小規模でもいいので、コツコツと活動を続けたいと考えている。

課題点・反省点

- ▶継続することの難しさ
- ▶モチベーションの維持
- ▶人材確保

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶「協力していただける人」や「参加していただける人」が笑えること、楽しめることを最大の目的にすることが大切だと思う。



地震後の景観づくりと魅力発信の一助に。 チューリップの植栽とスタンプラリーを実施。

〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地4607番地 | 電話：0967-22-4801 | 理事長：吉良清一 | 会員数：369名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶熊本地震後の景観づくりの一環で、「あそフラワーツーリズム事業」と題して、季節の美しい花で彩られる景観づくりに取り組んだ。会員や地域の希望をヒアリングし、栽培品目をチューリップに決定。本事業でチューリップ球根を購入し、各市町村の住民らと共に植栽を行った。
- ▶春先の開花時にはスマートフォンを活用し、「春のスタンプラリー」を実施。満開のチューリップを楽しむ見学者や観光客が数多く訪れた。
- ▶来春の開花へ向け、引き続きチューリップの植栽を続けたいという要望が住民からも上がってきたため、地域活性化への手応えを感じている。

自己評価

- | | | |
|----------|------|--------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶「春のスタンプラリー」に続き、コスモス・紅葉・スキイチョウを巡る「秋のスタンプラリー」を計画。今後もチューリップの植栽を続けながら、春秋の阿蘇を楽しむコンテンツのひとつとして、スタンプラリーの定着化を図っていきたくと考えている。

課題点・反省点

- ▶当初、観光施設を中心に植栽するつもりだったが、地域によって植栽地の選択がまちまちで、「観光への呼び込み」に統一できなかった。一方、植栽によって住民や学校が明るくなった。地域の元気づくりには役立った。
- ▶一部、人手が足りない地域もあり、そうしたところはこちらでフォローも必要だった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶「気軽さ」「身軽さ」「手軽さ」が大切。特別な道具が不要で、誰でも取り組み、喜べる。そういう意味でチューリップはおすすめ。晩秋～初冬にかけて雑草も生えず、管理が楽！しかもチューリップ自体が強いので、失敗も少ない。
- ▶重く考えすぎず、みんなで楽しく取り組んでほしい。



植栽作業には地域の小学生も参加

生育状況もこまめにチェック

阿蘇各地にチューリップを植栽。スタンプラリー方式で観光のきっかけに

古閑地区の新名所をつくるため、河川を整備。 四季を彩る花を植え、愛着のわく風景に。

〒861-2401 阿蘇郡西原村鳥子 1536 | 電話：090-9579-6045 | 代表：野田敏江 | 会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶古閑地区に新しい名所をつくろうと、自治会や老人会などの地域団体が結束し、はじめた取り組み。河川については重機を入れた整備が必要な場所があったため、予算をかけて依頼をし、その後、メンバーで川の中のゴミ拾いなどを行った。
- ▶河川沿いの雑草を除去し、彼岸花、コスモス、ケイトウ、菜の花と季節ごとに咲く花を選んで植栽を行った。
- ▶美しくなった河川の風景を地区内外の人たちにも楽しんでもらうため、目立つ場所に立っていた大きな看板を移設・修繕した。
- ▶最初は少人数でできることしかしないつもりだったが、自然と人が増えていき、いずれもやる気のある人ばかりだったので、思いのほか活動の幅が広がった。花植えを通して、みんなで共通の目標を決めて達成する喜びを得ることができた。
- ▶景観をよくすることで地域に元気や笑顔が生まれた。

自己評価

- | | | |
|----------|------|---------------|
| 物理的成果・売上 | ★★★ | 成果はあったが成功かは微妙 |
| 交流・雇用・定住 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |
| 元気・やる気 | ★★★★ | 取り組んだだけの成果あり |

今後の展望

- ▶関わってくれた人たちからは「次はいつ？」と聞かれることが多い。今後も活動を継続し、できるだけ河川整備を行い、やりがいを出していきたい。
- ▶地震によってふるさとを離れてしまった人にも、「この場所には自分の役割がある」と思ってもらえる場所や仕組みづくりができればと考えている。

課題点・反省点

- ▶広報に力を入れず、作業の段取りばかりしてしまったこと。もう少しPRできれば、地区内だけでなく、外の人からも名所と認めてもらえる場所になったかもしれないと反省している。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶年代を問わず、人を受け入れた方がいい。動く、動かないをこちらで勝手に決めつけないほうが、良い結果を生むと思う。



川の流れをよくし、除草作業を継続的に行っている



学生のボランティアを受け入れ、協同作業



古閑をよくし隊の主要メンバーたち



河川の両側に季節ごとに咲く花を植え付けた



看板移設前(上)と移設後(下)

南阿蘇村の豊かな子育てのヒントが満載。郷土愛を育み、日々を楽しむ情報誌を発行。

〒869-1411 阿蘇郡南阿蘇村河陰2579-1 ことあそ編集部 ●電話：090-1083-7720 ●代表：佐藤 慧 ●会員数：4名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶「南阿蘇の子育て情報誌 ことあそそのこ」を発行。地域の情報・歴史・文化などを取材し、子育て世帯へ無料で配布している。

▶発刊当初は南阿蘇村の「きらめく補助金」を活用。2年目、「里モンプロジェクト」の補助金を発行資金に充て、2500部を完成させて配布することができた。出産・育児支援や保育所、学校、公園情報、地域の祭りや日常の中に眠る地域の歴史など、南阿蘇村での子育てに有用な情報を盛り込んだ。育児中の母親たちが中心となり、生の声を掲載にした媒体で、保育園や学校を通じて村の子育て世帯に配布するのに加え、役場庁舎での配布や、南阿蘇村への移住希望者を対象に無料配布。「村での子育てに前向きになれた」という声が数多くあがった。冊子を通じて生まれたネットワークから、熊本地震による被災者支援やママたちのやすらぎづくりにもつながった事例もあった。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★☆☆ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

▶できるだけ長く活動を続けるために、人々の協力、資金づくりをがんばり、2019年度版(第5号)まで発行を継続した。3年目以降は村の補助金などを活用したが、村でも移住や子育て情報などをまとめて冊子にするなど、今まで情報発信のなかった行政への刺激になったと自負している。

課題点・反省点

▶助成金が終わればまた次年度の予算、資金繰りをどうするか考えなければならなかったこと。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶「ないなら作ってしまおう!」というやる気が、まわりの人々を動かし、行政にも声が届くのではないかと思いますので、「やってみよう!」。



南阿蘇村で子育てをするママが、自らの経験をもとにつくる媒体



保育園や村役場庁舎での配布の他、南阿蘇村へ移住を希望する人へ配布している

地震で長期避難区域となり、閑散とした集落。再興へ向け、老若が協力してフットパスに挑戦。

〒869-1401 阿蘇郡南阿蘇村立野 ●電話：080-2725-8397(事務局) ●代表：中山 初義 ●会員数：25名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

▶熊本地震によりライフラインが断たれ、集落ごと長期避難区域に指定された立野地域。避難指定は解除されたが、4年に及ぶ避難生活の中で新天地での暮らしを確立し、村へ戻らなかった人も少なくない。バラバラになってしまった集落の再建を考え、村を離れた人も関わり続ける機会をつくるために、フットパスを中心に様々な取り組みに挑戦している。

▶フットパスコース作成の実働部隊として地元在住&地元出身の若者たちが「立野わかもん会」を結成。協議会や消防団などの地域住民だけでなく、熊本大学やフットパス研究所なども交えてワークショップを重ねた。人材交流や学びの機会、地域の誇りを高める機会にもつながった。今後も引き続き大学などと連携した取り組みについても検討していく。

▶フットパスのコースや拠点となる場所の清掃や除草などを行った。また、村と連携し、自分たちではできない箇所の除草も行った。

▶地域のなかに、若い人の組織ができた。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶立野ならではの、「震災からの復興」をテーマにしたフットパスを完成させる予定。コースづくりから、その後のフットパスを継続させるためにも、活動資金を得る仕組みを考えている。

▶一度は集落存続の危機を感じ、そのなかから若者のやる気や、世代を超えた絆、集落内外との連携が生まれた。このつながりを大切につないでいきたい。

課題点・反省点

▶地元への周知を徹底して行う必要があることを実感している。コースづくりや、イベントとしてのモニターツアー、さらには一般のフットパス利用を広げていくためにも、周知の方法や回数などを今後もしっかりと検討していきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶まずはやってみること。世代や集落の垣根を越えたつながりも大切にしていくと、取り組みの可能性も広がると思います。



新たな阿蘇大橋の架橋や、集落の復興状況を現地で体感。これが、立野式の復興フットパス



ルート上には工事がつづく立野ダムを間近に眺める場所も



フットパス協会や住民らと交えたルートの策定会議



フットパスモニターツアーの参加者たち



手作りの夏祭りには立野を出た人も集まり大賑わい



フットパスの昼食は地元女性らによる郷土料理が大好評

北部豪雨被害からの復興。 水車や階段を新設し、花のもてなしで集客増。

〒869-2601 阿蘇市一の宮町手野481 ●電話：0967-22-2794 ●代表：山部今朝範 ●会員数：17名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

▶手野地区の国造神社・上卸倉古墳・手野の大杉といった地域資源に触れる「神話と名水伝説巡り」。中でも見どころのひとつだった水車が北部豪雨後の河川改修を機に回転できなくなっていたため、本事業を活用して水車を新設。さらに、「わくど石」を見学するための階段を設置したことで、集客につながった。

▶界隈の景観形成作物としてチューリップ7000個を植えつけし、地域の人にも喜ばれた。ひまわりやあじさいの手入れ、周辺の草刈り作業や公民館の門松設置などを参加者を募り、実施した。

▶会員が高齢化していることもあり、地区の営農集団活動を行う団体と共に新事業を実施。大学生を対象とした農業体験や、収益作物として苔やカラーの栽培に着手。

今後の展望

▶若い人の入会を促進し、それぞれの活動についても積極的に参加してもらえたらと思う。

▶地域住民の高齢化も進む中、それぞれの行動や生活をみんなで支えられるような取り組みも展開したい。

課題点・反省点

▶メンバーの高齢化によって、草刈り作業等に支障が出ている。「おふくろ会(5名)」の活動についても、昼食等のおもてなしが難しくなりつつあり、若い世代の会員を増やしていくことが急務だと考えている。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶高齢化を迎える昨今。1年1年時は過ぎていきます。若い人たちの力を必要としている組織、団体等が増えています。早く参加してください。



チューリップを植え付けし、地域の人にも喜ばれている



山菜は大切な地域の収益にもつながる



活気づく一方で、メンバーの高齢化という課題も



名水を巡る散策も

熊本地震からの復興！西原村の内外の連携を 深めることで、課題を抽出。集落再生を支援。

〒861-2404 阿蘇郡西原村河原 ●電話：090-5025-4314 ●代表：藤本延啓 ●会員数：8名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

▶西原村を復興させるため、関係団体(たんぼぼハウス、百笑応援団、社会福祉協議会、大学、ボランティアグループ含む)の情報共有と課題抽出の場づくりを行った。

▶集落再建のための話し合いをサポートし、専門家の派遣などを実施。村外に居住する団体スタッフが活動を続けることで、被災者だけでは手がまわらない部分を強力にサポート。継続的な活動につながっている。

▶地域の魅力再発見の手段として「地元学」の提唱者吉本哲郎氏を水俣から招き講義やワークショップを実施。

▶地元学の手法で葛目地区の「あるもの探し」を行い、地域における暮らしを記録。その成果を元に、「聞き書きマップ葛目暮らし」を作成。「地域の暮らし＝地域の魅力」を再発見できるビジュアルとしてのマップを制作した。

▶地元学とマップ作成で住民自らも村を深く知った。

今後の展望

▶西原村の復旧・復興の状況を見ながら、そのときどきで、「今できる活動」や「今必要な活動」を継続していきたいと考えている。

▶本事業で制作した葛目地区および他地区における「マップ」を復興に役立てていきたい。

課題点・反省点

▶村内のグループメンバーが増えない。
 ▶復旧・復興が進み、それぞれの忙しい日常が戻ってくるほどに、復興活動を継続していくことが難しくなる、というジレンマを感じている。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶無理せず、続けることだと思います。



地元学の手法を踏まえて地域を歩き、住民に話を聞き、見つけた地域資源を絵地図にまとめて発表



住民ひとりひとりの聞き書きからつくった絵地図のうちの1枚



「葛目くらしマップ」作成のため、葛目地区の皆さんに話を聞き、集落の仕事をお手伝いしている様子



地域の「水のゆくえ」について、地形図を使いながら確認

地震で壊れた水路の復旧整備と景観整備。 ホタル生育環境を整え、ツアー商品の造成へ。

〒869-2225 阿蘇市黒川270-2 碧水ホタルの里 ●電話：090-9769-6296 ●代表：嶋村征司 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成28年)

▶地震で壊れた水路の復旧整備に伴い、美しい景観と自然に親しむ商品・事業の開発につなげることを視野に入れ、その手段のひとつとしてホタルツアーを企画。ホタルの養殖場を整備し、年間スケジュールを立て、ホタルを採取し、飼育・放流・河川水路の清掃を1セットで行うことで、ホタルの生息数が増加。「ASO田園空間博物館」の協力を得て「ホタルツアー」を実施し、多くのお客様を迎えることができた。

▶無料のホタルツアーのため、集客はできても直接的な収益にはつながらず、河川整備等の作業は地域内外の協力者やボランティアによって継続している。ホタルツアー用の資材を充実させることができたので、このような補助事業が充実し、農村の活性化が進んで欲しい。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

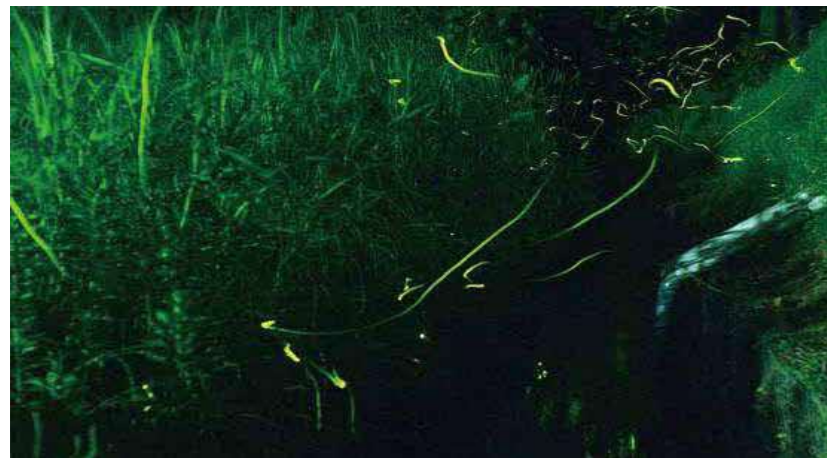
▶ホタルの自然繁殖へ向け、養殖場を整備していくと同時に、ホタル見学者に対する地域住民の理解を深める。
 ▶現会員だけでは活動も限界に近いので、活動に寄与してくれる新たな会員の確保をしていきたい。
 ▶「手野名水会」との交流や、同会主催のイベントや当ホタルツアーなどの相互参加・協力体制をつくりたい。

課題点・反省点

▶ホタルツアーの来客増は嬉しいが、一方で一般の見学者による車の無断駐車、見学マナーの悪い客への対応がなかなか徹底できず、近隣住民に迷惑がかかったケースもあった。改善の方策を検討していきたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶やりたいことがあれば、小さなことでも県や市町村にまず相談してみる。そうすれば、何か糸口が見つかり、広がっていくと思う。



碧水ホタルのメンバー

ホタルの養殖場を整備したことで、生息数が増加

地域の遊びや暮らしの歴史を語る「わらべ唄」 聞き取りとCD製作で子育て層も高齢者も元気！

〒869-1601 阿蘇郡高森町上色見2746-5 わらべの森 ●電話：090-2960-0418 ●代表：中山千春 ●会員数：8名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

▶先人の子育ての知恵である「わらべ唄」。地域の中に眠るこの宝を採取し、遊び方や当時の暮らしなどを高齢者から聞き取り、その唄や遊びを次世代の親子へ継承する活動。採取した唄についてはCD化し、地域の方へ配布し普及活動に努めている。

▶昔のわらべ唄を採取した本はあるが、音源やCDとして残したのは、今回が初めてのような感じ。音源として残ることで、聞いた人への伝わり方も変化する。繰り返し聞いて覚え、地域の中でも子どもたちと一緒に遊んだり唄ったりすることが増えてきた。

▶高齢者の中に「回想法」と同様に昔のことを思い出し、会話がふくらんだり、地域で高齢者が集って「おじゃめの会」として学び合ったりしている。聞き取りに協力してくれた人が、活動を通じて元気になったという声も。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

▶わらべ唄は先人が紡いできた地域の宝。先人が元気なうちにさらなる聞き取りをすすめて、残していかなければ文化が残らないという危機感がある。そのため、どこかで資金を得て、可能な限り2枚目、3枚目とCDを製作し、地域の親子の日常の中でつないでいく活動を続けていきたいと思う。

課題点・反省点

▶8~3月という8ヶ月の調査期間だったため、時間が足りなかった。以前、民謡の聞き取りをした方からは「2年でなんとかできる」という声も聞かれたが、まだまだ足りない。時間や金銭的な余裕、そして何よりわらべ唄を知る高齢者の数が少ないので、関係性を温めながら、密に長く聞き取りをしなければならぬ。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

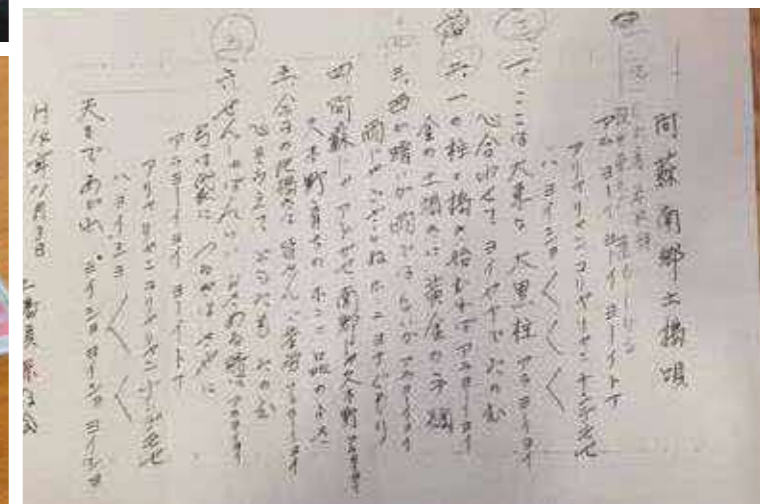
▶地域との連携を密にとること。情報を共有することが鍵だと思う。
 ▶わらべ唄や昔の知恵など、85才以上でないといと遺されていない。早急に調査することが大切だと思う。



わらべ唄の聞き取りは、回想的な感覚で高齢者の元気にもつながっている



聞き取りしたわらべ唄をCD化。後世へつたえる取り組みに



細かく歌詞を聞き取り、メモ。地域のかつての暮らしを忍ばせる歌詞も

新八代駅そばをローゼルとレンゲの花で彩り、 ジャム製造販売で障がい者のやりがいにも！

〒866-0802 八代市妙見町2377-3 NPO法人とら太の会内 ●電話：0965-30-0701 ●代表：山下博史 ●会員数：80名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶八代市の「よかとこ物産館」付近の休耕地を活用し、ローゼルやレンゲを栽培。新八代駅に白く美しい花のある花畑をつくり、訪れる人をもてなす景観づくりに。
- ▶当事業所を利用する障がい者が栽培に携わり、収穫等の取り組みを通じて、地域の方とふれあう機会をつくった。
- ▶さらに、収穫したローゼルでジャムを作り（現在は加工業者に委託）、同物産館や当法人加盟の各事業所で販売。自らが育てたローゼルが商品化され、販売されたことにより、障がい者たちが働くことへのやりがいを実感するとともに、工賃を得ることができた。

今後の展望

- ▶ローゼルはジャムだけではなく、乾燥してハーブティにしたり、粉碎して塩と混ぜ、バスソルトにするなど、多様な可能性を秘めた食材なので、今後も積極的に栽培や商品開発を続けていきたいと思う。

課題点・反省点

- ▶人員不足で、販路拡大のための積極的な営業活動ができない。
- ▶ジャム加工を委託している事業者が天草にあり、原材料のローゼルや、完成品のジャムの送料がかさむ。
- ▶ジャムの加工料金が低い。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり



ローゼルの花が咲く時期には、辺りがピンクに彩られる



ローゼルの酸味とあざやかな色をいかしたジャム
 そのほかハーブティやバスソルトもラインナップされている

雑草が茂る放棄地を「二見花公園」に！ 拠点化と交流事業で、住民のやりがいも創出。

〒869-5172 八代市二見本町681-2 ●電話：070-5413-4901 ●代表：山本幹雄 ●会員数：30名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶雑草が生い茂っていた放棄地を、その後の手入れのしやすさを考慮し整備。大型機械などを使った手入れがいらなくなったことで、地域の高齢者による手入れが可能となり、拠点性が増したことで管理意欲の継続も。
- ▶0.5haの花畑をつくり、隣接地に交流の場としても活用できる小屋を整備。住民で「二見花公園」としての維持管理を行いながら、「青空コンサート」等を実施し、地域内外の人たちの交流拠点として運営する。
- ▶交流イベントを継続的に開催し続けていることで、交流人口が増え、外から来た人が花畑を見て喜んでいる姿が住民たちのやる気にもつながっている。
- ▶花畑を「食の交流拠点」として「家庭料理大集合」イベントのほか、地域食伝承料理体験教室なども開催。これをきっかけにさらに花畑周辺の環境整備が進んだ。

今後の展望

- ▶公園やイベント整備と合わせ、カフェの開設を含め、訪れた人がいつでも利用できるようなハード整備もしていきたいと考えている。
- ▶事業資金と事業をコーディネートする人材の育成をしていきたい。

課題点・反省点

- ▶花畑周辺を交流拠点として、食の発信基地として展開したい。ビジョンをどのように描き、いかに継続的な活動につながっていくかが難しい。
- ▶これまでに支援されていない地域へも、偏りのないハード整備費用の支援もして欲しい。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶単年度で何かをやるのではなく、5年先を見据えてやるべきことに地道に汗をかくことをすすめたい。
- ▶誰かがやってくれると思わず、自分で動くこと。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり



写真上は整備前。生い茂っていた雑草や木々を伐採し、高齢者でも手入れしやすい花畑として整備。二見花公園として住民たちによる維持管理が続いている



花畑の中に憩う場を作り、交流の拠点に。住民たちや町外の人々がくつろぐスペースとなっている



アーティストによる青空コンサートも開催

泉町の農地や高齢者宅の草刈りを行い、耕作放棄地の増加や景観悪化を未然に防ぐ。

〒869-4403 八代市泉町下岳1572 ●電話：090-3328-5436 ●事務局：平川康太郎 ●会員数：7名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶農地や高齢者の住宅などの草刈りを行い、集落の美しい景観を保持している。
- ▶泉町で暮らす人のなかで、現役で柚子胡椒を造る人たちに講師になってもらい、町内外の人に作り方とこの地の文化を保存継承する取り組みに。教える側の人も「先生!」と呼ばれることで、喜びやモチベーションを感じているようで、地域住民が元気になっている。
- ▶高齢を理由に手が回らなくなってきた農地等の作業依頼も増え、景観悪化や耕作放棄地の増加を未然に防ぐことができた。
- ▶耕作放棄になりかけていた茶畑約4反を当組合で維持管理をし、耕作放棄を防いでいる。
- ▶餅つきや竹細工など、地域で受け継がれる伝統文化を保存継承するための教室や体験などを行っている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★ 成果はあったが小さかった
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶泉町の特産品の柚子や、茶の生産者の方々が高齢化してきており、耕作放棄地にならないようにするための畑の維持管理事業や、特産品を使った商品開発事業を続けていければと考えている。

課題点・反省点

- ▶泉町が高齢化してきており、若手の新メンバーが集まらないことを課題かつ問題だと感じている。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶事業や何かを行うときに、補助金は「助け補うお金」。助成金は「成長を助けるお金」なので、補助金や助成金がなくなれば継続不可能とならないような取り組みが重要であると思う。



▲もちつきや竹細工など、この地域で受け継がれる習慣や文化を子どもたちや若い世代の人たちへ受け継ぐ機会も
 ▲耕作放棄地を草刈りすることで、地域の景観維持を行う

6品目の野菜を使った漬物を試作。若者たちの力も借りて「売れる商品」作りへ。

〒869-5222 八代市坂本村鶴喰 227 ●電話：090-2585-0914 ●代表理事：松村梅雄 ●会員数：38名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶ラッキョウやニンニク、梅、ショウガ、大根、高菜を、酢漬け・紫蘇漬け・ぬか漬け・味噌漬けと味わいの異なる漬物として試作。試食会などを行いながら、7種類の漬物の商品化に目処をつけた。
- ▶長く売れる商品を育てるには、異世代の意見も大切だと考え、若者グループと交流しながらネーミングや袋、ロゴデザインなどを制作した。「道の駅坂本」など3つのルートで、米と漬物のギフト品としてのテスト販売を実施。今後は、取り扱いアイテム数を増やししながら、関西・関東圏も視野に入れた商品展開を行っていく予定。
- ▶男性組合員が手がける1次産品に女性組合員が手を加えて漬物にすることで、鶴喰地区の女性組合員を組織化。こうして生まれた女性組織は、漬物加工と並行して計画を進めていた「農家レストラン」の原動力となりつつある。上鶴・中鶴・下鶴の3つの地域を組織化することで、交流も盛んに。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶テスト販売を完了し、正式な商品ができれば、本格的に漬物市場へ参入していく。
- ▶漬物の販売だけでなく、農家レストランを軌道に乗せることで鶴喰を訪れる人の数や交流の場を増やし、地域全体の活性化につなげたい。

課題点・反省点

- ▶高齢女性が多いため、どれだけ生産を拡大していけるかは不透明な部分もある。
- ▶試作の際、目分量や自分の感覚でつくるため、レシピの画一化や作業工程の管理が不十分。今後、漬物市場へ本格参入するにあたり、このあたりの管理を徹底していく必要がある。
- ▶原材料の質にこだわるとすると、調達が難しい面も。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶「やろう!」という気持ちがあるなら、まず行政に相談してみるのをおすすめ。やる気のある団体や個人に対して、行政は温かく支援をしてくれるはずだ。



パッケージや商品紹介のためのリーフレットも作成



新商品の報告で、中村博生市長を表敬訪問。その様子が新聞記事に



限定数でできた漬物を付加価値の高い商品として販売するため、贈答品仕様に



売れる商品にするために、若者たちの意見を積極的に取り入れた

亀蛇や獅子が舞う、砥崎河原の雑木を伐採。 祭り最大の見せ場にふさわしい景観を創出。

〒866-0861 八代市本町 2-4-18 宮崎商店内 ●電話：070-5819-8246 ●代表：濱 大八郎 ●会員数：68名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶九州三大祭りのひとつ「八代妙見祭」で、妙見神が中国から海を渡ってくる時に乗ってきたと言われる亀蛇(きだ 通称:がめ)や獅子などが勇壮な演舞を繰り広げる「砥崎河原」を、妙見祭最大の見せ場にふさわしい景観にするため、竹林や雑木の大規模な伐採作業を行った。これを契機に景観保全の意識が高まり、その後は毎年11月に、地域住民や祭りの奉納団体が草刈りと周辺の清掃をつづけている。
- ▶八代妙見祭は、平成28年に「ユネスコ無形文化遺産」に登録された。これを受け、我々の活動も、祭りの保存継承、後継者育成に重点をおいて活動をしている。
- ▶県内外からの来訪者も気持ちよく観覧できる場所ができ、おもてなしの向上に繋がっていると感じている。
- ▶周辺清掃に参加する人が少しずつ増えてきたのも、景観保全に対する意識の高まりの表れだと思う。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★	成果があったとは言えない
元気・やる気	★★	成果はあったが小さかった

今後の展望

▶活動を維持していくための資金確保に苦慮している現状がある。クラウドファンディングにも挑戦しているが、今後もさまざまな工夫を重ねながら活動を維持継続していきたいと思う。

課題点・反省点

▶景観保全と祭り(伝統行事)の保存継承の両方に共通することは、地域住民の理解と協力が不可欠であるという点。住民の高齢化や地域コミュニティがどんどん希薄になる中、次の担い手づくりをどうしていくかが課題である。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶活動を始めてみると、いろいろなことが見えてくるので、まずは動くことからはじめてほしい。



生い茂っていた竹林や雑木を伐採したことで、広々とした河原が蘇った



川の両岸が観覧席となり大勢の観客が集まる



毎年、祭りの奉納団体が除草作業も



砥崎河原で行われる亀蛇の勇壮な演舞



河原の中を水しぶきを上げながら駆け抜ける馬追い



観客たちを魅了する、神幸行列

牧山や赤松太郎峠の整備とツアーの実施。 地元小学生へ向けた伝統文化の伝承活動も。

〒869-5302 葦北郡芦北町田浦 788 ●電話：0966-87-2866 ●代表：藤崎節子 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶肥後の名勝地と賞された「牧山」の価値を伝えるため登山道の状況をこまめに確認し、すべりやすい急斜面に階段状のステップをつくるなどの整備を行った。
- ▶牧山に登山する際にわかりやすい案内看板を設置。
- ▶「牧山ツアー」と題し、森林インストラクターや野鳥の方のガイド付きで牧山のトレッキングを実施した。
- ▶「赤松館」の2階展示室に展示されている「領内名勝図巻」で、来館者に牧山のすばらしさを伝えている。
- ▶「領内名勝図巻」を山頂付近のラビ岩にも設置し、登山客が江戸時代に描かれた当時の風景と、現代の実風景を照らし合わせて楽しめるようにした。
- ▶薩摩街道の要所でもある「赤松太郎峠」について、街道の整備や危険箇所の点検、案内看板の設置とともに、街道の歴史や名勝を盛り込んだ案内マップを作成。「赤松太郎峠越え徒歩ツアー」と題したツアーで魅力をPR。
- ▶昔話の冊子をつくり、地元小学生に伝承している。

自己評価

物理的成果・売上	★	成果があったとは言えない
交流・雇用・定住	★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶牧山ツアーや、赤松峠ツアーなど、多面的に魅力を伝える仕掛けを織り交ぜたツアーが好評だった。新聞社や各協議会などで開催しているウォーキングツアー、駅伝なども、こうした視点を取り入れたものにしてもらえないかと考えている。
- ▶方言を交えて作成した、地域に伝わる昔話の冊子を用い、小学生向けの朗読会と現地ツアーを継続したい。

課題点・反省点

- ▶保存会の高齢化が進み、将来的に登山道のメンテナンスをする人材の後継者のめどがたっていない。
- ▶薩摩街道を歩いた人には好評だったが、ほとんどが地元外からの人たちで、私たちが当初期待していた、「地元に対する理解・関心」の喚起にはあまりつながっていないようにも思える。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶地域の伝承や昔話などは、何かきっかけがない限りずっと埋もれたままになりがち。何かの機会を利用して時々、掘り起こす作業を繰り返していくことが、地域の文化の伝承にも役立つと感じています。



赤松太郎峠のコース整備の様子



赤松太郎峠ルート歩く



牧山ルートの整備風景

整備後の牧山で登山を楽しむ皆さん



フットバスマップを片手に、田浦まち歩きを楽しむ一行



森林インストラクターらと牧山歩き



一般社団法人 さくら福祉会

障がい者就労支援 A 型事業所で福祉農園を運営。 大消費地の販路開拓と商品開発で自立を支援！

〒867-0023 水俣市南福寺 3-61 ●電話：0966-63-3833 ●代表：龍 美光（よしみつ） ●会員数・参加人数：36 名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶平成27年度開設。レストラン部門の運営から始まり、里モンプロジェクトの支援を受けて休耕地を活用した無農薬野菜の栽培を開始。福祉農園の運営によって、休耕地を開拓し、農業環境の荒廃を防いでいる。
- ▶レストランで使用する野菜の他、モリンガ茶葉、サラダ玉ねぎの植え付け、加工、販売まで行い、6次産業化を推進。東京出張所(常駐1名)を置き、大消費地での販路開拓を行っている。
- ▶就労継続支援 A 型事業所として自立した福祉農園経営を実現しており、最低賃金以上の給与を支払い、社会自立を支援している。開始当初3名であった利用者は現在34名へと増加し、県下でも規模の大きな福祉法人へと成長している。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

成果・今後の展望

- ▶利用者数増加の他、農地の拡張、設備機器や加工場の充実が進み、生産量・販売量も当初の10倍以上を達成。さらなる生産量増加を目指し、新たにビニールハウス栽培も計画している。
- ▶農業従事による障がい者のスキルやモチベーションの向上も進み、生活保護から自立へと歩む利用者も増加。

課題点・反省点

- ▶自然を相手の作業なので、鳥獣被害や天候に左右されるので、上手く対処をしながら、事業を続けていくことが大事。
- ▶県や国が催す研修会やセミナーには参加し情報収集に努めているが、B型事業所向けのものが多い。B型とは根本的に異なるので、自分で切り拓いていくしかない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶企画力とアイデアで積極的に取り組む。いろんな体験を重ねる中でおのずと答えは出る。
- ▶このプロジェクトに参加するにはある程度の設備や人員が必要。そこを理解し、身近な取り組みから始めた方が途中の問題が起こりにくいと思う。



さくら福祉会の拠点は中華レストラン。一般客のほか、利用者へのランチ提供も



寒空の下、天日干しされた大根の収納作業をする利用者たち



龍代表。左にあるのがパッケージ化されたモリンガ茶



寒漬の作業。生産量は平成30(2018)年の500本から令和元(2019)年は5,000本へ



中小場婦人会

放置果実を使って「売れるジャム」づくり。 獣害被害の軽減と、住民の収入源に。

〒867-0282 水俣市古里1245 ●電話：0966-69-0672 ●代表：吉井恵璃子 ●会員数：15名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶どこの農村でもそうであるようにこの村でも、暮らしを支える術としてたくさんの果樹が植えられた。毎年変わらず多くの実をつけ続けるこうした果樹も、高齢の生産者が増えたことにより、収穫や出荷作業の負担が大きくなり、放置されることが増えている。落下果実は、イノシシなどの獣害を増やす要因ともなっている。獣害対策と、新たな住民の収入源とすることを目的に、果実を有効活用する加工品の開発をスタート。数種の果実のジャムを製造して、販売することにした。
- ▶ジャムの中身の製造に加え、パッケージデザインにも注力。プロのデザイナーの力も借りて、かわいいパッケージにした。こうしたことが功を奏し、ジャムの売れ行きも上々。製造等に関わる人たちにボランティア代として時給500円を支給する努力をしており、「売れる商品づくり」の大切さを実感している。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶作ること自体がとても楽しいので、これからも続けていきたいと思う。

課題点・反省点

- ▶高齢社やる気を引き出すのは大変なので、やるならもっと早くに取り組むべきだった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶始めるなら早いほうがいい。せっかく助成金があるのでパッケージデザインなど必要に応じてプロの力を借りて良いものを作るのがいいと思う。プロにデザインを頼んだら、中身は同じなのに売れ行きが大きく変わった。



ジャムの製造から充填、シール貼りなどすべて高齢者の手作業で



地域の放置果樹をジャムにして販売。イノシシなどの獣害対策にも

小学生と地域が共働し、大豆を栽培・加工。 サツマイモやもち米、サラたまの栽培も。

〒867-0173 水俣市葛渡 270-2 ●電話：0966-67-1003 ●代表：坂本欣也 ●会員数：70名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

▶小学生と地域の人たちの交流と、農作業を通じた地域文化の継承と食育を目的に、大豆の栽培に挑戦。住民のなかには大豆栽培や加工についての知識を持つ人も多く、たくさんの方に協力をいただくことができた。畑を保有する住民からは、「この事業のありがたさを感じた。今後も継続して欲しい」という要望があった。このような事業を通じて、若い人たちに地域の農業をつないでいきたいという思いを感じた。

▶大豆は枝豆として食べ、専門家の指導を受けながら、きな粉や豆腐、納豆などの加工食品をつくる体験を行った。子どもたちの喜びも大きかったようだ。

▶保護者からは、「親子の会話が増えた」と好評。

▶現在は、大豆からサツマイモやもち米、サラたまねぎの栽培に切り替えている。また、農地を維持する為に必要な水路の清掃等にも取り組んでいる。

今後の展望

▶大豆栽培については、既に活動を終了したが、今後も地域の人たちの協力を得ながら、農作物の栽培体験や、食育等の授業は続けていきたい。

▶里モンプロジェクトは成果の期待できる事業もあるので、今後も継続して欲しい。

課題点・反省点

▶授業の兼ね合いもあり、児童たちの活動時間をあまり取ることができず、時間調整に苦労した。

▶教師の転勤があるなかで、地域とのつながりや、こうした活動を継続していくためのよりよい方法を模索している。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶若い人たちはいろいろな農作業を経験し、是からの人生に生かして欲しい。

▶若い時の苦労は、何ものにも変えられない価値がある。

▶将来の地域の活性化のため、頑張ってもらいたい。



ポットで苗作りから 畑に畝を作って、苗の植え付け



すくすくと成長する大豆 大豆の収穫作業の1コマ



地元の人に教わりながら、きな粉づくりに挑戦



実がまだ若いうちに、枝豆として収穫



豆腐づくり。うまくいくかドキドキ



昔ながらのわら納豆に興味津々

専門的なノウハウをもとに荒廃した竹林を整備。 筍の集配と販路の確保で収益とやりがいUPに。

〒869-5442 葦北郡芦北町大字花岡 224-3 水俣、芦北たけのこ部会 ●電話：090-4583-7350 ●代表：松原孝樹 ●会員数：40名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶放置竹林を整備するにあたり、農林水産大臣賞受賞者の講演会を開催し、専門的なノウハウをもとに整備を行うことで、美しい竹林が蘇り、海外からの観光客を案内できるまでになった。また収穫した筍は、一括した集配システムを構築することで、集配・出荷の時間が短縮。さらに、筍の販売先をあらかじめ確保していたことで、部会員の収益増を実現できた。

▶以降、取り組みを続け、毎年管理することで整備が簡単になった。さらに毎年度ごとに収益もアップした。初年度から熱心に取り組む生産者が収益増をきっかけに、整備する竹林を拡大しはじめている。放棄地の解消にも。

▶協力会員である障がい者就労支援施設である「ばらん家」と協力して整備収穫を行い、販売はたけのこ部会が担当することで、互いに良好な関係を築いている。

▶筍の集荷作業を地域に周知し、部会員が増加した。

今後の展望

▶荒廃した竹林を部会員で整備していき、収益と放棄地の解消につなげていきたい。

課題点・反省点

▶竹林整備における筍の収穫量増は目を見張るものがあった。また販売先の確保により収穫した筍を廃棄することなく全品販売できたことが、地域の農家や高齢者にとって大きなやりがいにつながった。

▶農家にとって、続けていくためには、尽力が必要だが、販売先の確保が大切であることを感じた。今後もそうした流れを確保していけるよう、努めたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶今回、民間団体では困難な販売ルートの開拓を、県に協力してもらった。民間で不可能な支援等を行政に支援してもらおうなど、外部と互いの分野を生かした連携をとることで、活動の発展・継続が可能になる。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり



放置竹林の整備は、障がい者就労支援施設ばらん家との連携で行われた



タケノコを一括集配することで、出荷までの時間を短縮でき、効率アップ。販売先もしっかり確保して収益化も

水俣 林業女子会

女性たちが取り組む「小さな林業」。 森の恵みを商品化し、女性の収入をアップ。

〒867-0282 水俣市古里 1311 ●電話：0966-69-0656 ●代表：佐々木みつえ ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

▶伐採中心の「大きな林業」に対し、神榊やシイタケ、こんにゃくいもなど森の小さな恵みに目を向けるものを「小さな林業」と位置づけた。女性たちが力を合わせ、産物を育て収入につなげて行く取り組みをスタートした。

▶栽培からはじめる事業なので、1年完結するものではない。これらの植物を大きく成長させ、数年かけて結果が出るまでじっくりと育てていこうと考えている。

▶挿し穂やこんにゃくづくりなどの技術は学んだものの、まだ苗を育てている状態でもあるので、具体的な成果が出たとは言えない。気長な取り組みではあるが、参加者からは「ギンナンやこんにゃく芋といった昔からある地域の資源をもう一度見直すきっかけになった」という声があがり、実際にイチョウの枝打ちなど、森に手を入れる人も出てきた。放置されたものに再び光が当たりはじめたことは、実績のひとつでもあるように思う。

自己評価

物理的成果・売上	★	成果があったとは言えない
交流・雇用・定住	★★★	成果はあったが小さかった
元気・やる気	★★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶今はただ、「待ち」の時間。木や芋が1年でも早く生長してくれることを願いながら、草払いなどの手入れを行っている。

▶出荷できるくらいまで生長したときに、加工や出荷準備をすみやかにできるよう、この間も少しずつ研修はつづけていこうと考えている。

課題点・反省点

▶もっと早く活動をスタートするべきだった。植物の生長は遅く、人が老いるのは早い。メンバーに高齢者が多かったのも、もっと早く始めて、のちにみんなが恩恵を受けられるようにしたかった。出荷準備の研修も行ったが、本当に生長した頃にもう一度研修をしなくては忘れていそう。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶手遅れにならないよう、早く動きましょう。人が老いるのは早いです。まだまだ元気な頃に始めなければいけないと思いました。



神榊の植え付け作業



こんにゃく芋からつくるこんにゃくの加工研修も ほど木に穴を開ける作業



穴にひとつひとつ、シイタケの駒打ちを行う

あさぎり銘酒会

マイ球磨焼酎づくり体験オーナー制度で 球磨焼酎の魅力を次の世代へ引き継ぎたい。

〒868-0415 球磨郡あさぎり町免田西2573-37 あさぎり銘酒会 ●電話：0966-45-1055 ●代表：奥添昭典 ●会員数：5名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶5つの焼酎蔵元があるあさぎり町で、球磨焼酎の魅力を次の世代へ引き継ごう！という信念で活動をスタートした。「マイ球磨焼酎づくり体験オーナー制度」と題して、球磨焼酎田植えや稲刈り、焼酎の仕込み体験などを実施。地元の保育園や小学校の保護者らの参加が数多くあり、体験を通じて米や焼酎のことを知る機会を持つことができた。さらに、地域の人同士の交流にもつながっている。

▶イベント等を通じて得た利益を、活動資金に充てることで、持続可能な取り組みに育てている。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	成果はあったが成功かは微妙
交流・雇用・定住	★★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶今後も継続していくことを目標にしていきたい。

▶令和2年より「ふるさと納税マイ球磨焼酎づくり体験オーナー制度」のパンフレットを送付していく。

課題点・反省点

▶町内の方には広報等で知られているが、町外の方への周知がうまくできなかった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶補助金が使えない期間だけでなく、その後の活動資金をどう確保するかを考えながら、持続できる方法を探してほしい。



マイ球磨焼酎オーナー制で行われた、球磨焼酎用の田植えイベント



焼酎仕込み体験は大人気



体験オーナー制度チラシ

五木村グリーンツーリズム研究会

五木フットパスを快適に。コース整備に加え、地域の食材を使ったもてなし料理の開発も。

〒868-0201 球磨郡五木村甲 2672-7 ●電話：0966-37-2212 ●代表：吉松ひとみ ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶五木フットパスの取り組みをさらに加速するため、ルートを示す看板を設置。フットパスを歩くだけでなく、まだフットパスを知らない来訪者や、地域に住む人たちにも「ここがフットパスコースである」ということの認知度が上がってきている。
- ▶コースを整備はしたものの、スタッフの都合や周辺住民の調整がつかないことが多く、認知度を上げるためのモニターツアーの開催頻度が足りていないように感じている。
- ▶以前から活動を続けている地域の「茶話菓子会」や「おとなし会」と連携することで、柚子マーマレードの販売や、看板設置、イベント時のもてなしなどの対応が円滑にいくようになった。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	成果はあったが成功かは微妙
交流・雇用・定住	★	成果があったとは言えない
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶周知のためのイベントや、コース整備をこまめにすることで「五木フットパス」の認知度を高めていきたい。
- ▶今回は里モン助成に助けられたが、今後長く続けていくうえでは、補助金に頼りすぎず、いずれは会を自主運営していけるよう工夫をしていきたい。

課題点・反省点

- ▶連携がまだまだ不足している。いざイベントをしようとなっても、住民の都合がつかないこともあり、地域内外の理解と協力を深めていくこともこれからの課題。
- ▶いろいろな意見が出てくるため、その調整に追われて意志決定をするのが遅くなる。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶メンバーの結束が大事です。また、他の団体とのコラボなども意識して取り組むことをおすすめします。



フットパスルートの要所要所に看板を設置する作業



ツアーで大滝を歩く一行



ルート上で注意喚起を促す場所をチェックし、整備



進行方向を示す矢印も貼り付け



秋のフットパスツアーの様子

五木村ニンニク生産組合

新たな産業を創造するため、ホワイト6片ニンニクの加工品開発に挑戦！

〒868-0201 球磨郡五木村甲 5434 ●電話：090-1514-8835 (豊永) ●代表：岩本員功 ●会員数：9名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶風土をいかした新たな産物と産業を創造しようと、プレミアムなニンニクの栽培と加工品開発に挑戦。
- ▶着手した当時はホワイト6片という品種が希少なニンニクとして注目されていたため、栽培をスタート。JA営農センターと連携し、販売している。さらに、物産館を通して福岡への販売も行った。
- ▶加工品として、黒ニンニクやニンニクチップス、醤油づけなどを製造。五木物産館経由で福岡の西鉄ストアに試作販売した。阿蘇のミルク牧場で行われる五木村フェアの期間中、会員が店頭でPR販売をした。
- ▶黒ニンニクの売れ行きが好評で、生産量も伸びた。
- ▶共同で使えるニンニク乾燥機を導入し、品質向上に取り組んだ。栽培面積も41aに。
- ▶商品パッケージやパンフで加工品の売上げがUPした。
- ▶土壌成分検査を行い、それぞれの圃場にあった施肥を行って生育が良くなった。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶当初7名で栽培をしていたが、新たに2名がニンニクの栽培に加入。9名で栽培をしている。お互いによりよいニンニク栽培へ向けて勉強し、情報交換をしながら、市場価値の高いニンニクを生産できるよう努力していきたい。
- ▶村の特産品となるように生産活動を継続したい。

課題点・反省点

- ▶栽培にあたり、連作障害がおこって苦労した。
- ▶品質の安定と生産規模の拡大。
- ▶販路開拓が課題。道の駅を通じた販路開拓をしていたが、まだ思ったほどの成果は出ていない。今後村の他の農産物と共に具体的な商談なども進めていきたい。
- ▶生産コストと売価が折り合わない。
- ▶人吉球磨館内でも別品種のニンニクが多く、厳しい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶6次産業化が各地で行われているが、商品をつくって終わりではない。世の中のニーズを踏まえ、売り先を見ずしてつくることが大切。地域の中や外にいるエキスパートの意見を聞きながらやったほうがいいと思う。



地域の道の駅でも販売。売れ行きも上々



ホワイト6片の植え付け作業



阿蘇ミルク牧場で開催される「五木村フェア」の人気商品に



黒ニンニクタイプも



県内外各地で販売会を実施

五木村もりづくり工房

五木村が取り組む産直住宅 「五木源(ごきげん)住宅」の端材活用プロジェクト。

〒868-0202 球磨郡五木村乙 1502 ●電話：090-9230-5078 ●代表：津ヶ原隆俊 ●会員数：9名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

▶五木村は村の面積の94%を占める豊富な森林資源による所得の向上と地域の活性化を目指し、平成26年から産直住宅である「五木源(ごきげん)住宅」の流通および販売を行っている。流通過程で葉枯らし天然乾燥材の良質な端材が発生し、これを有効活用しようと「五木源住宅端材活用プロジェクト」が発足した。

▶当初、熊本県立大学の指導によってレーザー加工機の使用方法を習得したものの、できた作品は到底売れるものではなかった。「どうしたら売れる商品が作れるのか?どのような機械や工具が必要なのか?」を調査するために国内の先進地視察を行った。具体的には釧路高専では加工の細かいノウハウを、津別町の山上木工では工房運営について学んだ。また、東京上野ものづくりの街2k540では実際の商品を手に取り、デザインや仕上がりの良さを実感した。

▶知見を活かし、必要な機材を揃え、受託生産のほか、小学生対象のレーザー加工教室を開催したり、イベントに出店をしたりと活動の場が広がりつつある。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶少しずつではあるが、五木村ものづくり工房の活動内容が人吉球磨地域に知られるようになり、受注生産が増えつつある。

▶これからはオリジナル製品の開発や体験工房としての事業なども行い、若者が暮らせる仕事を創っていききたい。そのためには様々な人たちとの交流や連携が必要であり、積極的に新しいことに取り組んでいきたい。

課題点・反省点

▶所属しているメンバーの仕事がそれぞれ異なるため、全員そろってのミーティングが開催しづらい。情報の共有について工夫が必要。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶本当にやりたいことに活用できれば物事が進みます。是非、やりたいけどできていないことに活用してください。



清流川辺川と支流を育む豊かな森は、五木村の宝。ほとりには木材置き場も



五木村進行公社の五木源トーチ



木の駅五木プロジェクトの一環で行われる、軽トラで運ぶ「山の宝」



森の価値と仕事を伝える五木源住宅の展示



店舗の内装に用いられた一例



cafeみなもとのテーブルの製材も



レーザー加工のオーダーアイテムなども

田舎の体験交流館 さんがうら運営委員会

ふるさとを再発見し、魅力発信へ! 地元住民と一体となって、地域活性化を目指す。

〒869-6402 球磨郡球磨村大字三ヶ浦乙629-3 ●電話：0966-32-0443 ●代表：大無田満浩 ●会員数：31名

活動のあらまし(活動開始年度:平成28年)

▶「里やまさんぽ～さんがうら再発見～」と題した地域の魅力にふれるまち歩きのコースを、イベント時だけでなく、通年提供できるコンテンツとしてブラッシュアップ。ロングコースやショートコースなど、歩く人の体力や気分によって選べるバリエーション豊かなコースを造成。通年に加え、季節限定のコースも。

▶住民自身が地域のことを知り、自らの地元愛を醸成することを目的に、様々な講座を開催。東海大学観光ビジネス学科鈴木教授による地元学講座や、地域資源の発掘やコース整備に役立てるドローン講習会なども行った。また、球磨村観光案内人の会による勉強会なども。人が里山に入ることで、道が整備され、里山を形成。これを維持するための定期的な草払いや整備などを地区の公役と併せて行った。

▶地域を歩くコースができたことで、都市部の住民などの田舎体験として注目が集まった。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
 元気・やる気 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙



大無田地区資源調査

今後の展望

▶継続しながら少しずつ改善していきたい。都市部住民と地域住民との交流が深まるような試みをしたい。

▶週末の田舎暮らし体験や、都市農村交流イベントなどにあわせることでこの試みが、球磨村全体のファンづくり、移住定住予備軍の確保にもつながることを目指したい。春夏秋冬地域の魅力を発信したい。

課題点・反省点

▶安全性の確保
 ▶ガイドの確保
 ▶コースの整備
 ▶地域住民の巻き込み方

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶地域全体の合意形成は最初から求めることは難しい。まずは同志で始め、仲間を増やし、思いを伝えながら活動を行うといいと思う。



ドローン講習会(資源調査にドローンを活用。講師：東海大学福岡恵先生 協力：東海大学チャレンジセンター先端技術コミュニティACOT)



看板完成



地元学講座(講師：東海大学観光ビジネス学科 鈴木康夫教授)

お茶の新産地形成プロジェクトチーム

お茶の生産者や茶商らがタッグを組み、人吉・球磨のお茶をテーマにツアーを造成。

〒878-0001 人吉市鍛冶屋町 43 ●電話：0966-22-2566 ●代表：立山 茂 ●会員数：25 名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶ 県内の茶葉生産量の約4割を占める人吉・球磨地域。産地の未来を考えるため、人吉市の製茶・販売業を営む商店と相良村やあさぎり町の茶農家、料理研究家や熊本県立大学がタッグを組み、プロジェクトチームを結成した。
- ▶ この地ならではの旅の提案として、「お茶のある日本の暮らし」をテーマにモニターツアーを実施。民泊施設で茶を使った料理教室を開催。参加者には、昔ながらの割烹着姿で調理を体験してもらい、ランチを味わってもらった。
- ▶ 茶畑見学のあと、伝統的な日本家屋を使った製茶・販売店へ移動。参加者は和服に着替え、10種類のお茶をテイスティング体験を行った。品種の違いだけでなく、製茶の方法でも異なる味わいを体感してもらった。
- ▶ 旅の土産にもなるよう、日本茶の試飲セットの商品開発も。今ある資源を磨き上げることができた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶ 里モンで新しくプロジェクトチームをつくった4者との今後の協力関係の確認。
- ▶ 体験内容を検証し、さらにインバウンド客を満足させる内容に磨き上げて、各方面へPRしていきたい。
- ▶ 新茶のタイミングで新商品をつくりあげ、売り込みをかけていきたいと考えている。

課題点・反省点

- ▶ 里モンの許可が遅すぎる。農業は季節によって行わねばならない作業があるため、許可を待っている、時期を逸してしまう。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ 同じメンバーで話し合いや活動をするだけでは先には進みません。幅広い分野の方々と目的を共有できないか試すべきです。自分たちがやりたいことや、そのことがうまくいったときの姿をはっきりとイメージし、協働関係をつくっていくといいと思います。



和服を着てお茶のテイスティングを楽しむ参加者たち



品種や生産者、製茶法によっても異なる味わいを堪能



茶葉を使った創作料理が完成



生産者自らが圃場を案内。実際に茶葉に触れ、栽培のこだわりを聞く



割烹着姿に照れながらも、お茶を使った料理づくりを学ぶ



熊本県立大学COC学生研究 相性が良くなる村の縁づくりプロジェクト

学生×地域の可能性。茶農家との交流を通じ相良村の魅力を発見。村外でPRイベントも。

〒861-3811 上益城郡山都町大平 2718-3 ●電話：080-8364-0563 ●代表：出口 貴啓 ●会員数：11 名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶ 熊本県立大学の学生研究の一環で、調査研究をスタート。相良茶の取り組みを考えるにあたり、鹿児島のお茶農家や地域団体の視察を行い、地元住民のあり方やお茶を使った活動の先行事例を学んだ。
- ▶ 相良村のヴァレンタインフェスティバルで、子どもを対象とした相良村に関するクイズラリーを実施。来場者へ向け、相良村や特産品の知名度アンケートを行った。
- ▶ 熊本県立大学で開催された食に関するイベントで、相良村のお茶農家にお越しいただき、相良茶の試飲やお茶についての講演をもらった。また、相良茶の魅力PRや相良村の情報発信を行った。
- ▶ 熊本県立大学の学生を中心に、相良村を訪問。地元住民や農家の方との交流を図った。今回の里モン事業をきっかけに、初めて相良村を訪れた学生もいるなど、新たな人材交流の機会をつくることができた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★ 成果はあったが小さかった
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ 熊本県立大学のKUMAJECTと連携しながら、今後も毎年、相良村のヴァレンタインフェスティバルに学生が出店する仕組みをつくってきたい。
- ▶ 今回の活動を通じて、他地域の事例に触れ、地域づくりに取り組む地元の人と交流できた点はとても大きな意味をもつと感じている。こうした経験をいかし、学生が地域に入って活動する意義を他の学生にも伝えたい。

課題点・反省点

- ▶ 予定通り視察や準備をできればもっと充実した内容にできたが、スケジュールやメンバーの参加を計画的に調整できなかった部分は反省すべき点。移動費が効率的に使えなかった部分もあった。
- ▶ 組織編成やモチベーション維持も考慮し、月単位で計画を立て、予算とスケジュール管理を複数人で行う必要があると感じた。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶ メンバーの役割分担や、できる範囲のスケジュールリング、予算設定は詳細に行うこと。月単位や、場合によっては週単位で計画する必要があると思います。



県立大学の食のイベントで開催した相良茶の試飲会



食のイベントでは生産者との交流も



ヴァレンタインフェスティバルで村を訪問



小学生以下を対象にしたクイズラリーを実施



初めて相良村を訪れたという学生もいた

茶柱倶楽部

茶農家を中心に、お茶の魅力を伝える活動。 観光列車やレストランとの連携で認知拡大へ。

〒868-0093 球磨郡相良村川辺185-162 ●電話：090-8569-2616 ●代表：宮崎三枝 ●会員数：8名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶茶どころとして知られる相良村だが、市場では若い世代のお茶離れが著しく、今後の活路に不安もあった。そこで、茶農家の嫁を中心に、家族がつくるお茶と、産地としてのPRを試みることに。
- ▶「さがら茶」のブランド化に向け、リーフ茶(茶葉から淹れる緑茶)の普及、挽き茶を使った商品開発に取り組んだ。現代のライフスタイルに受け入れられる商品として、一定の評価をいただいた。
- ▶茶園めぐりや交流会、お茶のいれ方講座など、さまざまな視点から体験型の学習ツールとしてモデル化も試みている。
- ▶観光列車やレストラン、旅館などさまざまな事業者との連携を図ることで、茶農家だけでは取り組めなかった新たな商品開発や利用法の提案にもつながっており、「さがら茶」のブランド化とファン拡大を促進している。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶観光列車内で「さがら茶」のドリンク提供やレストランメニューにひき茶を使用してもらい、「さがら茶」の名前を広げて産地認知向上につなげ、茶の市場入札価格のスタート額を引き上げることを目標にしている。

課題点・反省点

- ▶もっと凝ったパッケージを作りたいが、予算不足のためなかなか外注がしづらい。自社で作成したものは道の駅等で売れるものはできるが、今後活路を見いだしたい百貨店などの新たな売り場での展開を視野にいたした開発も必要だと感じている。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶横のつながりを広げ、多くの方々と新しいことへつながっていきけるよう頑張ってください。



生産者ならではの茶商品から、相良茶を使ったスイーツや球磨焼酎のお茶など、地域の特性を生かしたコラボ品なども

中山間松尾集落

遠山桜のそばに芽吹くわらびを酢漬けに。 販売と、その先の食卓まで見据えた商品開発。

〒8680451 球磨郡あさぎり町須恵7512-19 ●電話：090-4358-2811 ●代表：遠山好勝 ●会員数：9名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶集落の生き残りを目指し、「わらびの酢漬け」の開発を試みる。これにあたり、6次産業プランナーの本田節さんをアドバイザーに招き、4回の講習会を実施。田舎料理の講習を受講しながら、わらびの酢漬けとコラボする料理や、原材料となる塩漬わらびの用途について考え、製造と活用の促進に取り組んだ。
- ▶商品開発にあたり、保冷庫を購入した。
- ▶販売促進、PRにつながるグッズとして、チラシとパンフレットを作成した。またこれにあたり、熊本県立大学生とワークショップを実施、パッケージデザインについての検討も重ねた。
- ▶地元で開催される食のイベントに開発商品を持ち込み、試食会を行った。
- ▶宮崎県高千穂町の「民宿まろうど」に集落の8人と研修に出向き、自立経営と雇用の創出をするノウハウを視察。事業や移住定住の取り組みへのヒントを得た。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶集落の高齢化により、労力の確保が難しくなっているなかで、集落全体の農業法人化等も含めた集落のマスタープランの作成を行いたい。この中に、わらびを活かした事業や民宿等で関係人口を増やし、集落の維持につなげていきたいと思う。

課題点・反省点

- ▶親の介護を控える家族が多く、そのなかで農業経営集落作業が厳しくなること。
- ▶地元の生産物が100%活かされていないこと。
- ▶集落全体としてのビジョンが一致していないこと。事業を通してこうした集落の問題を把握できたことはひとつの収穫でもある。本事業では商品開発に期間を要したため、調査・試験の余裕がなかった。移住定住推進については研修だけに終わり、実践ができていない。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶挑戦することは難しいことではないので、まず歩み初めて欲しい。隣の人と話し合い、模索するのは楽しいこと。資金がなくても何か始めて見ようかと、機会を見つけ、形に残るものや、子どもたちが住み続けられるふさとづくりを考えることが大事。



茶畑の中に咲く「遠山桜」で知られる集落。遠山桜の近くにあるワラビを、地域の資源として有効活用し売れる商品にしていくことが本事業の軸となった

熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草

地域の農林産物や加工品を、県外でPR。
これを機に、商品開発や販路拡大への発展も！

〒868-0501 球磨郡多良木町多良木1648 多良木町役場企画観光課 ●電話：0966-42-1257 ●代表：岡本雅博 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶ 過疎が進む椈木地区をどうにか活気づけたいと、地区内で「多良木町振興山村活性化推進協議会」という20人程度の任意団体を新たに組織化した。
- ▶ 里モン以降は、平成28年度から30年度まで国の補助事業を受け、地域資源でもある食材を活用した商品開発や販路拡大を目指し、活動を続けている。国の定額補助金を3年継続して受けられるため、中期的な視野のもとに事業を展開することができている。
- ▶ 椈木地区で生産された農林産物や加工食品を、福岡市吉塚商店街で月に一度オープンするアンテナショップで販売。椈木地区のPRを行った。
- ▶ 本事業だけの成果ではないだろうが、若い家族(1家族2人)が椈木地区に移住してくれ、過疎化が進む集落の希望になっている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ 構成員が高齢化してきているので、新しい事業展開や規模拡大といった面での不安も大きいですが、やれる取り組みをできるだけ継続する工夫を続けていこうと考えている。

課題点・反省点

- ▶ 椈木地区の高齢化率は約8割。多良木町のなかでも突出した過疎地域のため、人材の確保や担い手不足が深刻な状況である。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶ その時々で課題は変わっていく。その都度、やれることを模索し続けることが大切。



加工現場



地域資源を活かした開発商品パッケージにも工夫が凝らしてある
町のマルシェイベントなど、各地で集落と産物のPRを続けている

ミツマタで椈木の名前を冠にした和紙を製造。
体験や商品の販売で、次世代の仕事を作りたい。

〒868-0505 球磨郡多良木町椈木 682 ●電話：0966-44-1134 ●代表：椎葉製史 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶ 集落で育つミツマタを有効活用しようと、和紙製造に挑戦。越前和紙組合との取引を実現させた。名古屋の会社と連携して椈木地区や椈木和紙のPRを行っている。
- ▶ ミツマタが地域の収入源になるのなら、次世代の仕事になるかもしれない。限界集落と呼ばれて久しい地域でもあり、未来を担う若者が住める場所にしていきたい。
- ▶ 助成金をつかって、越前和紙との取引がスタート。また、造幣局との取引がある山口県の徳地和紙など、先進地での研修ができたことは大きな糧になった。
- ▶ 助成金で和紙製造に必要な道具を5割程度揃えることができ、とても助かった。
- ▶ 都市部の広告会社の手を借りながら、地域や和紙のPRを続けている。
- ▶ 最初は無関心だった地域や自治体が少しずつ興味を示してくれるようになり、取り組みに幅が生まれた。漫画家や書道家からのオーダー和紙の依頼なども。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶ ミツマタの自生地は多いが、栽培地が少ないため、今後は植栽を続けて収量を増やしていきたい。
- ▶ 和紙製造の技術も高めて質のいい和紙をつくり、注文者からの要望に応えられるものづくりをしていきたい。
- ▶ 廃棄していたミツマタの枝を商品化したい。假屋崎省吾個展に使用していただいている所である。

課題点・反省点

- ▶ 貴重な研修をさせていただいたが、産業として行っている産地が遠いため、2回3回と研修に行けないのが残念。少しずつ収入を増やして研修を重ねていきたい。

これから活動を始める方々へのアドバイス

- ▶ いつまでも好奇心を持ち、挑戦する気持ちを持ち続けること。私自身も70の手習いなので、諦めず多くの人にトライして欲しい。



山の斜面を活用したミツマタ栽培
みんなで収穫作業。斜面での作業は重労働
収穫後のミツマタは長さを揃えて保管
ミツマタの皮をはく作業も地域総出
ミツマタの繊維を煮詰め、紙漉きをしていく
すいた和紙を貼り付けて乾燥させていく
越前和紙の工房へ研修に
北海道の町長の視察受け入れでは紙漉き体験も

高齢者の経験を活かし、住民総出で蕎麦生産。地域のコミュニティ再生への取り組み。

〒868-0303 球磨郡錦町西 24885 ●電話：090-2586-2888 ●代表：大坂間弘美 ●会員数：26名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶休農地を耕し、高齢者の指導のもと、子どもから大人まで地域住民総出で蕎麦栽培に挑戦。さらに蕎麦打ち講座を利用し、技術を習得。栽培から蕎麦打ちまで一貫した流れがあるということ、次世代に指導することで、高齢者の生きがいづくりや、子育て世代の食への意識向上につなげている。
- ▶住民全体で蕎麦づくりに取り組むことで、地域コミュニティの再生に繋がった。
- ▶里錦第一区内には有形文化財として観音堂があり、春と秋の年2回行われる「相良三十三観音めぐり」の祭には、訪れた巡礼者の土産として購入いただけるような蕎麦粉加工品を開発し販売するなどして見たものの、継続にはいたっていない。
- ▶若年層は平日参加ができにくく、休日についても天候に左右されるため、やむを得ず高齢者だけ、地区役員だけで活動を行うことも多い。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★★	非常に大きな成果あり
交流・雇用・定住	★★★	成果はあったが成功かは微妙
元気・やる気	★★★	成果はあったが成功かは微妙

今後の展望

▶売上げや利益を活動資金とすべきだが、2~3年は人件費を稼げる状態にはならないだろう。そのため、地域住民が栽培する無農薬の作物を用い、完全無添加の加工品にし、販売して活動資金につなげようと、販路などの模索を続けている。

課題点・反省点

- ▶蕎麦畑は花の時期になると見物客も増え、そば粉の売上げ自体はよいが、販路にはまだ課題が山積み。ふるさと納税に出すことも考えたが、誰がやるのかが問題。
- ▶5反の蕎麦畑を、5万円で機械を借り受けて管理をしているが、売上げと照らし合わせると赤字ではある。
- ▶もともと子ども会と老人会でスタートした活動。労力が大きいので、辞めたいという人も出てきた。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶目下、私たちは行政区で事業に取り組んでいるが、農産物には繁忙期があり、必要なときに必要な参加人数を集められないこともある。行政区を越えた協力体制も必要。ボランティア活動、奉仕の精神だけではなかなか人は集まらないので、なんらかの報酬が必要ではないか。



満開のそばの花。周囲には、鹿による被害を防ぐためのネットも設置されている



植え付け前の圃場



地域のコミュニティ再生事業としてそば栽培に挑戦



農耕器具も持ち寄って、作業を続けた



少子高齢化が進み、数年前から作業人数にも限界が

一年中美しい景観を維持するため、菜の花やヒマワリ、蕎麦を栽培。町の活性化へ。

〒868-0075 人吉市矢黒町 1847-1 ●電話：0966-24-3042 ●代表：桑原勝夫 ●会員数：30名

活動のあらまし(活動開始年度:平成25年)

- ▶「長生会」の年間事業計画の一環として、活動を継続。年間を通じて美しい景観を保つため、春は菜の花、夏やヒマワリ、秋は蕎麦を栽培している。
- ▶会員自らが楽しみながら取り組んでおり、会員相互の交流や健康づくりにもつながっている。さらに、花の時期には町外から訪れる人も増えはじめ、町の活性化に幾分か貢献できたと実感している。
- ▶休耕地を借り上げて景観創造を図る計画を立てていたが、事業認定が変更となったり、一部地主の協力が得られなかったりといくつかの理由で拡大は断念。規模を縮小しながらも、年間を通じた花づくりは地道に続けている。
- ▶地元の新聞で紹介されたことで、町内の住民たちの関心が高まり、自らの町を往来する人が増えて活気づいてきた。

自己評価

物理的成果・売上	★★★★	取り組んだだけの成果あり
交流・雇用・定住	★★★★	取り組んだだけの成果あり
元気・やる気	★★★★	取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶年間を通じた花作りは、会の事業のひとつとしてこれからも継続していきたいと考えている。

課題点・反省点

- ▶休耕地の活用は機械や栽培予算、人的協力体制や地主の理解など多くの課題がある。中山間地の休耕地対策は行政の手助けがなくては前に進まない。
- ▶高齢者のグループなので作業に無理が生じ始めている。新しい人がなかなか入ってこないのにも危機感を覚えている。1つ1つの花の植え付け規模を小さくするなどしながらも続けたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶休耕地の増加に悩んでいるが、こうしたことにも目を向ける若手グループがでてこないかなと待っています。山側の休耕地は鹿やイノシシのすみかにもなるので、是非、各地で取り組みを始めて欲しい。



百太郎溝土地改良区

ふるさとの宝「幸野溝・百太郎溝水路群」 地域一帯となって認知を高め、魅力を発信。

〒868-0501 球磨郡多良木町多良木1110-1 百太郎溝土地改良区 ●電話：0966-42-2075 ●代表：岡村文明 ●会員数：45名

活動のあらまし(活動開始年度:平成28年)

▶日本遺産人吉球磨の構成資産のひとつでもある「幸野溝・百太郎溝水路群」の歴史を学び、魅力を知ってもらう為の取り組み。施設見学と、その周囲の田園や用水を巡り歩くフットパスなどを合わせて体験してもらい、両水路の役割や恩恵などを肌で感じてもらう。

▶ツアーの中でグリーンツーリズムのお接待や観光巡りも取り入れることで、それまで関心の薄かった観光分野の方々にも興味を持ってもらい、つながりができた。その結果、観光イベントのひとつに「幸野溝・百太郎溝水路群」を入れてもらえるようになり、その後の取り組みやイベントにも協力してもらえるようになった。

▶平成30年1月「幸野溝・百太郎溝水路群を活かす会」を設立。行政やグリーンツーリズム、観光案内人等の団体も加入いただき、一体となった取り組みをスタート。

自己評価

物理的成果・売上 ★ 成果があったとは言えない
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶「幸野溝・百太郎溝水路群」をもっと知っていただくため、活かす会の設立をきっかけに様々な団体と連携して、活動を継続させていきたい。

課題点・反省点

▶参加者募集を広くPRする必要がある、その方法を検討している。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶行政や地域の人など、いろいろな団体と連携することで実現できることも増える。分野を限定しすぎず、関わりを広げていくのがいいのではないかな。



▲百太郎溝と、その周囲の用水路や田畑などを見学するツアーを開催。灌漑遺産の価値を周知した

▶幸野溝の役割を知るための農業体験やトンネル



フットパス相良路

相良路の歴史や自然をフットパスで見直す。 内外の人々との連携で、効果的な地域新興へ。

〒8680022 人吉市願成寺町524 ●電話：090-8352-5077 ●代表：坂本克彦 ●会員数：10名

活動のあらまし(活動開始年度:平成28年)

▶「相良藩城下町コース」は、郷土料理を提供するおもてなしの方や、古い町並みの残る地域の人たちと協力し、ツアーを実施。行政とも連携し、人吉球磨の他のフットパス実施団体とネットワーク組織を作り、地域外の人を呼び込み、フットパスによる地域振興を図っている。

▶「フットパス奥球磨猫寺コース」は、奥球磨広域連携推進協議会と連携し、一般や小学生対象のまち歩きを実施。地域の自然景観や歴史遺産等の魅力を再認識し、地域外の人との交流を図っている。今後は新コースを設定し、さらに活動を広げ、地域振興を図っていく。

▶地域の方にもコース選定に参加いただくことで、郷土の魅力が再認識してもらうことにつながった。また、おもてなしとして郷土料理の提供をしてもらい、コース周辺の住民との交流が図られたことで、地域に活気が生まれた。コースのスタートとゴールを別の駅にすることで、球磨川鉄道の利用促進に貢献できた。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 交流・雇用・定住 ★★ 成果はあったが小さかった
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

▶現在のコースでのフットパスの実施と、人吉球磨のフットパス団体との連携で、効果的な活動運営を実施する。

▶熊本県では「歩く人を歓迎するまちづくり」に取り組んでいるため、そのような団体とも連携協議し、さらにフットパスの普及とともに地域振興に努めたい。

課題点・反省点

▶その地域のありのままの風景を歩いて楽しむというフットパスの定義があまり理解されていないため、地域住民の参加協力を得るのが難しかった。

▶今後事業を進めるには、地域外の人を呼び込むための広報や、人吉球磨のフットパス団体と協力してイベントを実施するなどを検討していく必要がある。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶里モンプロジェクト推進事業は、初めて取り組む事業には活用しやすいので利用し、他の里モングループ等と交流や連携を図りながら、事業を進めることも必要だと思う。



フットパスによるまち歩きで、身近な風景や歴史建造物などに触れ、思い思いの相良の魅力を感じ取ってもらっている。地域の郷土料理でもてなす場なども

山の食菜「ならがわ」

地域コミュニティの再生へ。農繁期の配達や高齢者の買い物支援、独居世帯の声かけも。

〒869-6402 球磨郡球磨村大字三ヶ浦乙 629-3 田舎の体験交流館さんがうら ●電話：0966-32-0443 ●代表：那良美紀 ●会員数：4名

活動のあらまし(活動開始年度:平成30年)

- ▶週に一度、コミュニティの維持・再生へ向けた活動を実施。農繁期の弁当・惣菜の配達に加え、高齢者の買い物支援・宅配サービス、移動販売などを実施。同時に、高齢者世帯や独居老人世帯を訪問し、積極的な声かけを行いながら、見守りとコミュニケーションの促進を図っている。
- ▶地域の人たちの要望を取り入れることで、活動内容の幅が広がってきた。移動販売車のまわりに人が集まることで会話が生まれ、住民同士のコミュニケーションが盛んになり、高齢者の見守りの機会にもなった。
- ▶地域や住民のコミュニティをサポートする事業を行うことで、住民との距離も縮まった。
- ▶活動が村内外へ周知されたことで、食に関する注文が増えて売上げ増につながった。さらに、移動販売の許可が取れたことで今後の展開の幅も広がり、自立可能な事業としての可能性を見いだすことができた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶移動販売では、食品だけでなく日用雑貨の扱いをスタート。さらに、その日は一日、「さんがうら」で買い物ができるようにする(地域内外問わず利用可)。
- ▶食を活用し、地域の縁側的なサロン事業や、地域の食材を活用した健康食づくり、地域住民の生活支援とコミュニティの維持に取り組むとともに、高齢者とのコミュニケーションを通じた技術・知識の継承を図りたい。

課題点・反省点

- ▶どの地区も販売希望時間が11~12時に集中し、食事の時間帯でもあるので対応に苦労した(今年度中には全集落、ほぼ希望時間通りに対応する目処が立った)。
- ▶メニューや調理、移動販売時の温度管理の精度をさらに上げていく必要がある。
- ▶里モンの採択時期が遅く、農繁期(6~7月)の配達に間に合わなかった(今年是对応できている)。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶計画を立てるだけでなく、実際にやってみることが重要。協力者はきついているので、動き始めてからもいろんな話を聞き、少しずつすすめていけばいいのではないかと思います。



移動販売は今や、高齢者の楽しみのひとつになっている様子



熊本県立大学の学生たちとコラボ弁当づくり



独居老人宅の訪問や声かけも



弁当や惣菜のメニュー開発。健康維持につながる食を意識



移動販売や配達をはじめるにあたり、地域住民を対象とした事業説明を実施

蓮華ファーム上村

3万本の紫陽花と、桜の苗を植えて公園化。フットパスの人気寄り道スポットにも。

〒868-0821 人吉市上漆田町 3485-1 ●電話：090-1082-8750 ●代表：上村富章 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成28年)

- ▶昭和初期に開拓地として生まれた地域だが、過疎高齢化によって、どんどん荒廃していくのを忍びなく感じた。そこで、紫陽花や桜、紅葉を植えて、美しい農村風景を取り戻し、地元の農家の人たちはもとより、地域外の人たちも訪れる地にしようと、植栽活動をはじめた。
- ▶3万本の紫陽花を1人で植え続けきたが、里モンの取り組みも功を奏し、地域内外で協力者が出てきた。まわりのシルバーさんたちにも力を借りながら、植栽活動を続けており、手応えを感じている。
- ▶近年は鹿やイノシシ、猿などの獣害被害が顕著。20~30頭の群れが出て、桜の苗木は鹿にかじられて200本近くも枯れてしまった。そこで、狩猟免許を取得し、11~3月は駆除活動も行っている。またこれらを有効活用するため、ジビエ料理の研究なども始めた。
- ▶山の中のポツンと一軒家状態だが、フットパスで訪れる人も増え、自然を愛する人たちとの交流が楽しい。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 元気・やる気 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙

今後の展望

- ▶何もない荒廃地に花や四季の彩りを添える木々を植えることで、人としての心を取り戻す農村景観とコミュニティ維持の取り組みを続けていきたい。
- ▶農村以外の協力を得るため、フットパスの活動を進めていきたい。年を取ったので観光農業にシフトしたい。
- ▶山中に多目的貸しホールのようなものをつくり、人が集まり、お金が集まる仕掛けをしていきたい。

課題点・反省点

- ▶とにかく、人手不足が悩みの種。持続可能で元気な農山村を目指すためには、人材の育成が急務だと感じている。
- ▶資金不足にも悩んでいる。県や市町村の資金的な応援がなくては何も動かない。どこかモデル地区のようなものを定めて、持続可能な支援をしてほしい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶「やる気がなくてもやってみよう」「できることから取り組んでみよう」という人の割合が少なくなっているようにも思える。自分から動いてみるのが大切。



「あじさい蓮華パーク」は6月には1ヶ月2,000~3,000人が訪れる人気スポットに



「今後は紫陽花をドライフラワーにして販売しようと思います」と上村さん



青井阿蘇神社+αの人吉の名物を!と植え続けた紫陽花に、今では観光バスも



鳥獣被害もあるため、狩猟免許を取り、対策も

嵐口里山保存会

耕作放棄地で栽培するオリーブを生産出荷。
獣害で荒れた段々畑の里道を整備、遊歩道に。

〒866-0313 天草市御所浦町御所浦 2815 ●電話：0969-67-2111 (御所浦支所 緒方) ●代表：野崎博敏 ●会員数：8名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶嵐口地区振興会の下部団体として設立。復興会の事業を委託されている。耕作放棄地の再生のために植栽したオリーブの生産管理と出荷作業で収入を得ている。
- ▶嵐口地区振興会が住民に呼びかけ、春と秋の年2回、住民参加型の草刈りを行い、景観保全に努めている。
- ▶低木のヤブで覆われて、イノシシの被害で凸凹に崩落してしまった段々畑までの里道約100mを草刈り機で下草刈りし、キャリを用いた地ならし作業を行って整地。再び舗装するために、砂や砂利、セメントなどを搬送し、コンクリート打設作業を行って散策遊歩道をつくりあげた。地域の人たちの癒やしの場として愛されている。
- ▶当会の活動を見ていた若手たちが、ソフトボール愛好者たちの「会」を結成。スポーツだけでなく、前島橋に鯉のぼりをつるしたり、冬のイルミネーションの設置や、島あじマラソンの支援など、積極的に地域を盛り上げる活動を始めた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶オリーブは収穫してオイルにするまでの時間が短くなければいけないので、今は海岸まで搬送して車に積み込み、フェリーで本渡の九電工に納品販売している。一方で、搾汁機を導入し、嵐口地区以外の島内2ヶ所でオリーブを栽培している人もいますので、この人たちに協力を仰ぎ、御所浦の特産品として販売し、事業化したい。
- ▶オリーブは台風被害も鑑み、対策を考えていきたい。

課題点・反省点

- ▶「美しい景観の保全」と「オリーブの生産出荷」を行う当会。70歳以上の高齢者ばかりなので、今後リタイアする会員が出た場合にどう対応するかが大きな問題。
- ▶前回の台風被害は、天草市の補助を受けて復旧ができたが、再び台風の被害があった場合に公的支援があるのか。支援を受けてでも復旧する価値があるのかなど、判断が必要だと考えている。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶常に「チャレンジする」気持ちを持つこと。「最新の情報収集」に努め、「どう改善対策すべきか」を常に考えること。「どんな仕掛け(システム)」をつくるか考えること。「会の設立運営」や「企画立案申請書」にも積極的に関わることをおすすめしたい。



美しい景観を維持するために、定期的に行っている除草作業の様子



オリーブ等植栽箇所の下にあるふれあい広場の手入れ前



ふれあい広場の整備作業風景



ふれあい広場の整備作業完了後の風景



赤で囲んだエリアが嵐口地区 桜やブドウ棚なども備えられ、季節の彩りを楽しめる

老岳集落

35戸の集落の存続をかけた取り組み。
藤や彼岸花、田んぼアートに、商品開発も。

〒861-6105 上天草市松島町教良木4581-2 老岳集落 ●電話：0969-57-0636 ●代表：松本光義 ●会員数：35名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶35戸の小さな集落を活性化させるため、地域景観の整備に着手。「彼岸花」「藤ロード」「田んぼアート」を組み合わせて、年間の観光客数が1000人以上に。
- ▶自治会や公民館、老人会などの地域団体が互いに協力し合い、彼岸花の定植や、藤の花の育苗を実施。オーナー制を取り入れて藤の花を定植することで、継続的な交流人口の確保と、観光客の増加に努めている。
- ▶老岳女性部が、自らの作った野菜を100円で販売する「100円均一事業」なども花の時期に併用することで、収入増につながり、野菜作りの楽しみも増えている。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★ 成果はあったが成功は微妙
- 元気・やる気 ★ 成果があったとは言えない

今後の展望

- ▶小さい集落がなくならないよう、これから先の展開、何を行動にうつしていくかを検討している。収入につなげることで継続できると思うので、農産加工所を整備。
- ▶加工所で商品開発を行い、「銀座熊本館」へも出荷を始めているので、これを拡大していきたい。

課題点・反省点

- ▶人づくりと収入を考える点がまだ足りなかった。



毎年趣向をこらした絵が浮かび上がる田んぼアートは今や、夏～秋の風物詩に。畦には彼岸花が植えられ、手作りの案山子たちが賑やかに出迎える



倉岳トレイルクラブ

倉岳の九州百名山復活を目指し、ルート整備や登山会を実施。農産物販売で地域還元も。

〒861-6402 天草市倉岳町棚底 2163-1 ●電話：090-7580-2215 ●代表：稲田 哲 ●会員数：30名

活動のあらまし(活動開始年度:平成24年)

- ▶かつて九州百名山に数えられていた天草最高峰の山「倉岳」。1972年の天草大水害の影響で長らく登山道が廃道になっていた。荒れ果てていくのを見かね、天草のパラグライダー愛好家らと草や倒木の処理をつづけ、2012年に登山道を復活。その後、毎月第1日曜と第3日曜に倉岳山系への無料トレイル会を実施しており、現在7つあるルートも、毎回ルートを変えながら歩いている。
- ▶毎月の登山会には、町外からの参加者が多く、玉名や熊本市内、天草全域などからの参加者も。皆さん一様に、倉岳町に対しても好印象を持ってきている。
- ▶登山会終了後、地元の農産物を販売。米やイチゴ、ミカン、オクラのほかに、町内の店でつくられた弁当や飲み物、土産品等の販売会もしており、参加者はもちろん、地域の人たちからも喜ばれている。
- ▶行事以外でもツアーバスによる登山やグループ登山なども増えてきて、住民の評価も上がってきた。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶自然学習や体力づくり、心へ与える力など、登山がもたらす好ましい作用をもっと多くの人に知ってもらい、さらに参加者や協力者を増やしていきたい。
- ▶今後も不定期に会員さんに集まってもらいながら、新たなルート開拓と、既存ルートの整備作業を継続的にやっていこうと考えている。

課題点・反省点

- ▶町内の会員よりも町外からの会員が多いのは喜ばしい反面、問題点でもあると考えている。地元の山々の良さや、町民の皆さんにも知ってもらいたい。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶山の中には町民の知らない自然と文化財がたくさんある。そうした価値を若い人たちに気づいてもらい、後世に残せるようにしたいのではないかな。



登山道の維持管理も大切な仕事



月2回の登山会には町内外から参加者が集まる



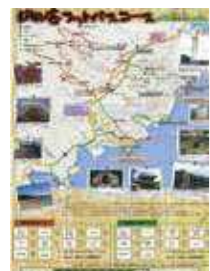
棚底地区の防風石垣を眺めて歩くルートも



倉岳トレイルクラブの活動を観光協会も支援



会員によって開拓された登山道のひとつ



フットパスの取り組みも



倉岳の山頂にも看板を設置



頂上にある倉岳神社からの眺め

御所浦地区振興会

地域で親しまれている桜公園の登山道を復旧。伐採作業を通じ、住民が地域の魅力を再発見。

〒866-0313 天草市御所浦町御所浦 4310-5 ●電話：0969-67-2111 ●代表：山下英二 ●会員数：20名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

- ▶御所浦地区の中心にあり、以前から地域住民に親しまれている「桜公園」という公園は、ここへ続く里道が荒れ果ててしまっていた。集落の憩いの場でもあったため雑木の伐採や除草作業を行い、登山道の復旧を図った。
- ▶当初の計画では、植栽や危険箇所へのロープ設置も行う予定だったが、想定よりも大きな雑木の伐採に難渋し雑木伐採と除草、登山道の軽微な整備までに止まった。
- ▶雑木を伐採したことで、頂上からの眺めがよくなった。十年ぶりに頂上から港付近を眺められるようになっただけでなく、さらに麓から眺めた山容もすばらしくなり、住民たちからの評価も上々。
- ▶活動開始時はチェーンソーや草刈り機の扱いに慣れていない会員も多かったが、活動を通じてノウハウを得ることができた。
- ▶事業に取り組んだことで、地域の魅力再発見にもつながった。

自己評価

- 物理的成果・売上 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
- 交流・雇用・定住 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
- 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶今後は景観に配慮した植栽を行い、頂上付近の整備などを通じて、里山周辺が地域住民や買い物客の憩いの場になるよう、事業の転換を図っていきたい。

課題点・反省点

- ▶当初の調査が不十分だったこともあり、予定していた通りに作業が進まなかった。今後、里山の整備や管理をしていく上で、人材や財源をどのように確保していくかが課題。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶十分な調査を踏まえた上で、グループメンバー間で具体的なランドデザインを描いて活動を始めることが大切だと思う。



桜の時期には島のイベントが行われ、多くの人で賑わう



振興会総出で草刈り・整備



桜の木が少ない御所浦。神社の桜は名物のひとつ



桜公園からの眺め



桜の木の下は住民たちの憩いの場にも

下浦町の歴史を語る石切丁場跡地を整備。 商品開発、賑わい創出、さらに郷土玩具製作へ。

〒861-6551 天草市下浦町7387-1 ●電話：0969-23-2215 ●代表：近藤康彦（宗像和久） ●会員数：31名

活動のあらまし(活動開始年度:平成29年)

- ▶地域の歴史文化の検証と情報発信を目的に、フットパスの新たなコースをつくった。
- ▶下浦町の史跡でもある「石切丁場跡地」の整備と活用として、「弁天カフェ」イベントを開催した。
- ▶「ばんかんジュース」や「しもうら石こんにゃく」などの新商品開発に取り組み、「下浦ふるさと祭り」「天草しょうぶ祭り」といった地域の祭りに参加し、賑わいの創出に貢献した。
- ▶高齢化・過疎化が進む地域を元気にしたいというメンバーで構成される「しもうら弁天会」。少人数から始めたが、東京のデザイン会社との人的交流をきっかけに、江戸時代から続く「天草土人形(どろにんぎょう)」の魅力を掛け合わせた「しもうら土玩具(どろがんぐ)」の製作を開始。町の特産品になるよう取り組む中で早速、大手メーカーからの取り扱い申し出があるなど、実績が出始めている。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 非常に大きな成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 非常に大きな成果あり

今後の展望

- ▶過疎化、高齢化が進む一方の町だが、この町にある歴史や産業を活用し、地域活性化を図りたい。そのためにも、石切丁場跡地の整備やフットパスの実施による、下浦町のPRと、ばんかんジュースの販売促進、さらには、「しもうら土(どろ)玩具」製作による町の新たな文化の始まりにしたい。

課題点・反省点

- ▶地域づくりに関心を持つ住民の掘り起こしが十分でなかった。
- ▶活動が十分に、住民の理解を得るまでには至らなかった。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶地域全体で取り組むのは困難も多い。まずは少人数でもいいので同じ思い(目的)を持つ人たちが動き出すことが必要。地域の理解は少しずつ深まるはず。
- ▶活動をしていく上では時間的余裕のあるリタイア世代の協力を得ることも有効だと思う。



(上から)下浦ふるさと祭り、しもうら石こんにゃく、弁天カフェ。
 (左)天草の郷土玩具「天草土人形」の魅力伝える創作玩具「しもうら土(どろ)玩具」

下島最高峰「天竺」を周年、魅力のある山へ。 登山家や花愛好家、地域の喜びを育む。

〒8632611 天草郡苓北町都呂々5174-6 みどりの会 ●電話：0969-36-0576 ●代表：養上政喜 ●会員数：30名

活動のあらまし(活動開始年度:平成26年)

- ▶原生林化していた天草下島最高峰の「天竺」に光を当て山頂に4500本のツツジを植栽し、ツツジ公園として整備。満開となる4月下旬に「天竺ツツジ祭り」を開催し、サザンカや、スイセン、桜など四季折々の表情を楽しむ公園整備をし、地域外からの入込を増やしている。
- ▶秋には「天竺 天の川西遊記登山」とし、健康登山や地元物産販売などのイベントを開催。手造りこんにゃくや柚子ごしょうなどを参加者へプレゼントし、地域のファンづくりと、小銭を稼げる仕組みを地域に提案。
- ▶山頂の維持管理に年間を通じて取り組んだ結果「全国しま山100選(日本離島センター主催)」に選ばれた。
- ▶15年取り組みを続けることで認知が高まり、メディアで情報発信がなされ、住民の誇りも高まっている。

自己評価

物理的成果・売上 ★★ 成果はあったが小さかった
 交流・雇用・定住 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

今後の展望

- ▶町内の年間出生数は50人以下。高齢者や死亡数がそれを上回り、小中学校統合も進む中だからこそ、住民が目標を持ち、元気に生活する状況を継続していきたい。
- ▶会員が高齢化するなかで、活動内容も見直しが必要になってきており、会の自立の難しさも感じている。国や県、市町村の手助けも望みたいところ。

課題点・反省点

- ▶発足当時は地元小学校が廃校となり、地域に危機感があったため、活動にも積極的に参加する人が多かったが、時間が経つにつれ会員の結束力が弱くなっている。
- ▶外部講師の導入、先進地視察、メディア活用を繰り返し、奮起を促してきたが、年間を通じて山・登山道を維持するのは限界。経済的な体力をつけることが課題。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

- ▶活動を続ける中で楽しみを感じる仕組みづくり。
- ▶経済的な体力を養う仕組みづくり。
- ▶その地域を好きになること。



山頂に植栽されたツツジ。4月には天竺ツツジ祭りも



山頂の維持管理を続けた結果、「全国しま山100選」に選出された



健康登山イベントには島内外から多くの人が訪れる

湯島・夢の島づくり会

ネコの島の天然産品を活用して、島おこしへ。 湯島大根や海藻の製品化により、販路拡大中。

〒869-3711 上天草市大矢野町湯島 627 ●電話：090-8295-3671 ●代表：緒方和彦 ●会員数：35名

活動のあらまし(活動開始年度:平成27年)

▶里モンプロジェクトの支援により、島の天然産品を集めて、天然いきいき市を開催。同時に来島者に島の一日を楽しんでもらうための海遊びや畑での収穫物を味わってもらうイベントを開催した。以来、毎年夏休みに実施してきたが加工事業開始と共にその活動に専念し始めたのでこちらの活動は休止している。

▶その後、上天草市のまちづくり資金の助成を受けて島に食品加工場を建設。当会の有志により資金を調達して島おこし事業として加工事業の運営を始めた。この6月に法人化して、現在は島の天然海藻を加工して商品を製造。現在その販売ルートづくりに取り組んでおり、徐々に県内各地に取引を拡大しつつあるところ。

自己評価

物理的成果・売上 ★★★★★ 成果はあったが成功かは微妙
 交流・雇用・定住 ★ 成果があったとは言えない
 元気・やる気 ★★★★★ 取り組んだだけの成果あり

成果・今後の展望

▶島の産品を通じてまずは熊本県下に島への関心と注意を呼び起こして、その人たちの中から島への移住を考える人たちを生み出していきたい。

▶そのためにも当事業の運営(経営)を成功させて、その人たちへの経済源となる成果を挙げて十分に積極的支援ができる事業へと発展させていきたい。

▶夢であるが、産品の開発事業から観光事業等への展開が出来るように進めていきたい。

課題点・反省点

▶事業立案や進行運営に取り組むので精一杯で、島民一人ひとりに十分に理解を得る活動が不十分だった。

▶島の若い人たちの積極的な参加を期待してきたが、残念ながら我々の指導力不足でいまひとつである。実績を上げることで、関心を高めるしかないと思っている。

これから活動を始めの方々へのアドバイス

▶本気になること！につきます。



販路拡大中の天然海藻「あかもく」さらなる増産が見込まれている



夢の島づくり会の拠点である、ぼんやりカフェ 週末は一般客向けの営業も行っている



夢の島づくり会の代表、緒方氏



◀あかもくの製造工程
 左上:加工場
 右上:あかもくを洗浄
 左下:洗浄したあかもくを釜で湯で上げる
 右下:釜揚げ、粉碎されたあかもくをパック詰め



湯島の風景▶
 上:ネコたち。週末にはネコとふれあう目的に、多くの観光客がやってくる
 下:湯島大根。一般的な青首大根が湯島高台の畑では大きく育つ。名物である



熊本
宇城
上益城
玉名
鹿本
菊池
阿蘇
八代
芦北
球磨
天草